

平成 28 年 度

# 学 生 生 活 調 査 報 告

独立行政法人日本学生支援機構



# 平成 28 年度 学生生活調査

## まえがき

日本学生支援機構では、学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成 16 年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成 14 年度までは文部科学省において実施していましたが、平成 16 年 4 月の日本学生支援機構（JASSO）の設立に伴い、文部科学省から業務が移管されました。

平成 28 年度調査については、平成 30 年 3 月にその調査結果を取りまとめたところですが、本報告においては、大学昼間部、短期大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 26 年度）との比較を行いながら調査の概要を説明するとともに、過去 10 年間の学生生活費や主な経費等の推移についての資料も掲載しています。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（通信課程、休学者及び外国人留学生を除く。）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国 2,940,992 人から 96,696 人を抽出し、平成 28 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法は、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、在籍学生数に比例して、各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。回収率は 45.7%、有効回答数は 44,169 人で、本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑で、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の各大学及び各短期大学の関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に改めて深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構

# 目 次

まえがき

1.	学生生活費	
(1)	年間学生生活費	1
(2)	学生生活費の推移	1
(3)	設置者別の学生生活費	3
(4)	居住形態別の学生数の割合	4
(5)	居住形態別の学生生活費	5
(6)	地域別・居住形態別学生生活費	7
(7)	男女別・居住形態別学生生活費	8
(8)	学年別の学生生活費	10
2.	学生の収入の状況	11
3.	家庭からの給付額等	
(1)	家庭からの給付	14
(2)	家庭の年間平均収入	14
(3)	家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合	15
(4)	家庭の収入階層区分別学生数の割合	16
(5)	主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合	16
4.	アルバイトの従事状況	
(1)	アルバイトの従事状況	17
(2)	アルバイト従事時期別学生数の割合	19
(3)	アルバイト従事職種別学生数の割合	21
5.	奨学金の受給希望及び受給状況	
(1)	学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況	22
(2)	家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況	23
(3)	奨学金の種類別・設置者別受給状況	24
6.	居住形態別・地域別通学時間	25
7.	週間平均生活時間	27
8.	大学の学生支援体制への満足度	30
9.	学生の不安や悩み	31
	(参考)	
	㊤表：居住形態別・設置者別の学生生活費	33

## 平成 28 年度学生生活調査集計表

### I. 大学・短期大学

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(大学昼間部) . . . . . 36
A-2	//	(大学夜間部) . . . . . 37
A-3	//	(短期大学昼間部) . . . . . 38
A-4	//	(短期大学夜間部) . . . . . 39
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(大学昼間部) . . . . . 40
B-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 40
C-1	居住形態別・地域別学生数	(大学昼間部) . . . . . 41
C-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 41
D-1	学年別年間学費支出平均額	(大学昼間部) . . . . . 42
D-2	//	(大学夜間部) . . . . . 42
D-3	//	(短期大学昼間部) . . . . . 43
D-4	//	(短期大学夜間部) . . . . . 43
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(大学昼間部) . . . . . 44
E-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 45
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 46
F-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 47
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 48
G-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 49
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(大学昼間部) . . . . . 50
H-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 50
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入用途別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 51
I-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 52
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 53
J-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 54
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(大学昼間部) . . . . . 55
K-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 56
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合	. . . . . 57
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(大学昼間部) . . . . . 58
M-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 58
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(大学昼間部) . . . . . 59
N-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 59
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(大学昼間部) . . . . . 60
O-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 61
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(大学昼間部) . . . . . 62
P-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 63

## II. 大学院

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(修士課程)	66
A-2	〃	(博士課程)	67
A-3	〃	(専門職学位課程)	68
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(修士課程)	69
B-2	〃	(博士課程)	69
B-3	〃	(専門職学位課程)	70
C-1	居住形態別・地域別学生数	(修士課程)	70
C-2	〃	(博士課程)	71
C-3	〃	(専門職学位課程)	71
D-1	学年別年間学費支出平均額	(修士課程)	72
D-2	〃	(博士課程)	72
D-3	〃	(専門職学位課程)	72
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(修士課程)	73
E-2	〃	(博士課程)	74
E-3	〃	(専門職学位課程)	75
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	76
F-2	〃	(博士課程)	77
F-3	〃	(専門職学位課程)	78
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	79
G-2	〃	(博士課程)	80
G-3	〃	(専門職学位課程)	81
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(修士課程)	82
H-2	〃	(博士課程)	82
H-3	〃	(専門職学位課程)	83
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入用途別学生数の割合	(修士課程)	84
I-2	〃	(博士課程)	85
I-3	〃	(専門職学位課程)	86
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(修士課程)	87
J-2	〃	(博士課程)	88
J-3	〃	(専門職学位課程)	89
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(修士課程)	90
K-2	〃	(博士課程)	91
K-3	〃	(専門職学位課程)	92
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合		93
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(修士課程)	94
M-2	〃	(博士課程)	94
M-3	〃	(専門職学位課程)	95
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(修士課程)	96

N-2	〃	(博士課程) . . . . .	96
N-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	97
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(修士課程) . . . . .	98
O-2	〃	(博士課程) . . . . .	99
O-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	100
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(修士課程) . . . . .	101
P-2	〃	(博士課程) . . . . .	102
P-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	103

## 参考資料

資料1	平成28年度学生生活調査実施要領 . . . . .	107
資料2	調査票様式及び調査票記入要領 . . . . .	113
資料3	過去10年間の学生生活費－学生生活調査結果から－	
	(1) 大学昼間部・短期大学昼間部 . . . . .	135
	(2) 大学院 . . . . .	144
資料4	主な経費等の推移の図・グラフ (平成10年度調査以降)	
	(1) 学生生活費及び収入額内訳の推移 . . . . .	153
	(2) 家庭からの給付程度別アルバイト従事状況の推移 . . . . .	158
	(3) 奨学金受給状況の推移 . . . . .	163

## 〔留意事項〕

1. 本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせたものである。  
学 費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計  
生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計
2. 本報告の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。
3. 本報告の「大学」は、大学学部のことを言う。  
また「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」は、大学院の下記の各課程のことを言う。

修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期2年(医・歯・薬・獣医を除く)
博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期3年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

4. 専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。なお、大学院については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならない学生生活費等の集計に含まない。
5. 質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計の際に集計対象から外したものがある。
6. 集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として調査対象学生総数から推計値を算出した結果である。
7. 表中の記号は次のように使う。  
「-」： 計数が無い場合  
「0.0」： 計数が単位未満の場合  
「…」： 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合
8. 本文中で使用する表(A表、B表…)と集計表(A-1表、B-1表…)のアルファベットは、内容が関連するものではない。



## 1. 学生生活費

### (1) 年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は、次のようになっている。

#### ①大学（昼間部）等

平成26年度調査（以下「前回調査」という。）と比較すると、大学（昼間部）で1.2ポイント増、大学（夜間部）で5.5ポイント増、短期大学（昼間部）で0.4ポイント増、短期大学（夜間部）で7.7ポイント増となっており、どの学校区分も増加している。

#### ②大学院

前回調査と比較すると、修士課程で0.8ポイント増、博士課程で4.1ポイント増、専門職学位課程で1.9ポイント増となっており、どの課程も増加している。

**A表 年間学生生活費**

[単位:円]

区分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	922,400	466,900	787,900	510,800	616,100	459,900	848,700
	その他の学校納付金	124,100	36,200	169,400	44,100	29,700	15,100	52,400
	修学費	46,100	42,600	50,000	40,700	49,700	119,400	95,000
	課外活動費	36,000	29,800	7,600	7,100	19,300	24,400	15,200
	通学費	64,800	69,100	74,400	74,800	57,700	63,300	75,200
	計	1,193,400	644,600	1,089,300	677,500	772,500	682,100	1,086,500
生 活 費	食費	174,100	200,400	103,800	137,300	274,800	403,100	326,000
	住居・光熱費	190,400	217,900	98,000	113,200	334,000	452,400	314,400
	保健衛生費	36,300	41,200	34,400	35,900	40,600	66,400	57,100
	娯楽・嗜好費	139,500	144,000	117,300	120,700	145,600	232,300	177,700
	その他の日常費	150,500	256,800	144,500	210,600	196,000	414,400	369,900
	計	690,800	860,300	498,000	617,700	991,000	1,568,600	1,245,100
合計	(1.2)	(5.5)	(0.4)	(7.7)	(0.8)	(4.1)	(1.9)	
	1,884,200	1,504,900	1,587,300	1,295,200	1,763,500	2,250,700	2,331,600	
参 考	平成26年度	1,862,100	1,425,900	1,580,500	1,202,700	1,750,200	2,162,000	2,289,100
	平成24年度	1,880,100	1,377,500	1,651,800	1,157,800	1,735,700	2,120,300	2,194,300
	平成22年度	1,830,500	1,435,700	1,591,600	1,109,900	1,732,100	2,112,200	2,243,700
	平成20年度	1,859,300	1,412,200	1,580,000	1,076,200	1,742,100	2,053,100	2,222,500

(注) ( )は、平成26年度調査の金額を基準とした増減率である。

### (2) 学生生活費の推移（B表、第1図）

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、すべての学校区分で学費が減少（大学（昼間部）0.2ポイント減、短期大学（昼間部）1.3ポイント減、修士課程1.0ポイント減、博士課程3.5ポイント減、専門職学位課程6.9ポイント減）している一方、すべての学校区分で生活費は増加（大学（昼間部）3.6ポイント増、短期大学（昼間部）4.5ポイント増、修士課程2.2ポイント増、博士課程7.8ポイント増、専門職学位課程11.0ポイント増）している。

学生生活費の増減率の推移について大学（昼間部）で見たとところ、前回調査との比較では生活費が増加しているものの、平成22年度調査以降では、増減を繰り返している。

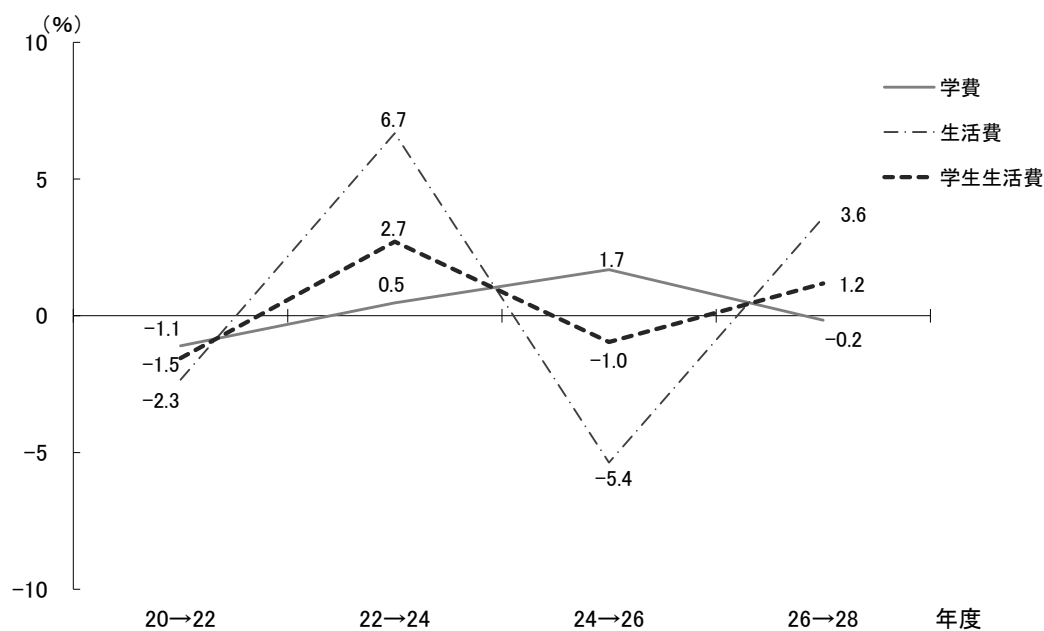
B表 学生生活費の推移

[単位:円]

区分		年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度	
大(屋 間 学 部)	学	授業料及びその他の学校納付金	(△1.5)	(0.2)	(3.0)	(0.2)	
			1,011,600	1,013,700	1,044,600	1,046,500	
		修学費、課外活動費、通学費	(1.3)	(2.1)	(△6.9)	(△2.5)	
			158,400	161,800	150,700	146,900	
	費	計	(△1.1)	(0.5)	(1.7)	(△0.2)	
			1,170,000	1,175,500	1,195,300	1,193,400	
生	学	食費、住居・光熱費	(△1.3)	(△5.2)	(△0.8)	(2.2)	
			379,500	359,700	356,700	364,500	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△3.7)	(22.7)	(△10.1)	(5.2)	
			281,000	344,900	310,100	326,300	
	費	計	(△2.3)	(6.7)	(△5.4)	(3.6)	
			660,500	704,600	666,800	690,800	
合 計			(△1.5)	(2.7)	(△1.0)	(1.2)	
			1,830,500	1,880,100	1,862,100	1,884,200	
短(屋 期 間 大 部 学)	学	授業料及びその他の学校納付金	(0.8)	(△2.3)	(3.0)	(△0.8)	
			958,600	936,700	964,700	957,300	
		修学費、課外活動費、通学費	(2.2)	(0.1)	(△10.2)	(△5.2)	
			155,000	155,200	139,300	132,000	
	費	計	(1.0)	(△1.9)	(1.1)	(△1.3)	
			1,113,600	1,091,900	1,104,000	1,089,300	
生	学	食費、住居・光熱費	(△6.2)	(7.4)	(△14.9)	(5.3)	
			209,500	225,100	191,600	201,800	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(5.8)	(24.7)	(△14.9)	(4.0)	
			268,500	334,800	284,900	296,200	
	費	計	(0.2)	(17.1)	(△14.9)	(4.5)	
			478,000	559,900	476,500	498,000	
合 計			(0.7)	(3.8)	(△4.3)	(0.4)	
			1,591,600	1,651,800	1,580,500	1,587,300	
大 学 院	修 士 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△1.2)	(△1.5)	(1.9)	(△0.5)
				646,300	636,700	648,900	645,800
			修学費、課外活動費、通学費	(0.2)	(△2.9)	(△13.1)	(△3.7)
				156,000	151,400	131,500	126,700
		費	計	(△0.9)	(△1.8)	(△1.0)	(△1.0)
				802,300	788,100	780,400	772,500
生	学	食費、住居・光熱費	(0.0)	(△7.5)	(6.4)	(2.5)	
			603,200	558,100	593,900	608,800	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△0.9)	(19.3)	(△3.5)	(1.7)	
			326,600	389,500	375,900	382,200	
	費	計	(△0.3)	(1.9)	(2.3)	(2.2)	
			929,800	947,600	969,800	991,000	
合 計			(△0.6)	(0.2)	(0.8)	(0.8)	
			1,732,100	1,735,700	1,750,200	1,763,500	
大 学 院	博 士 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△1.0)	(△5.4)	(2.1)	(△2.8)
				505,800	478,600	488,600	475,000
			修学費、課外活動費、通学費	(2.2)	(△13.4)	(△9.8)	(△5.1)
				279,400	242,000	218,300	207,100
		費	計	(0.1)	(△8.2)	(△1.9)	(△3.5)
				785,200	720,600	706,900	682,100
生	学	食費、住居・光熱費	(2.0)	(△7.2)	(5.1)	(6.1)	
			826,800	767,200	806,400	855,500	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(9.3)	(26.4)	(2.6)	(9.9)	
			500,200	632,500	648,700	713,100	
	費	計	(4.6)	(5.5)	(4.0)	(7.8)	
			1,327,000	1,399,700	1,455,100	1,568,600	
合 計			(2.9)	(0.4)	(2.0)	(4.1)	
			2,112,200	2,120,300	2,162,000	2,250,700	
大 学 院	専 門 職 学 位 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△3.3)	(△5.3)	(1.0)	(△7.3)
				1,015,900	962,400	972,500	901,100
			修学費、課外活動費、通学費	(0.0)	(△9.4)	(△5.5)	(△4.9)
				227,700	206,200	194,900	185,400
		費	計	(△2.7)	(△6.0)	(△0.1)	(△6.9)
				1,243,600	1,168,600	1,167,400	1,086,500
生	学	食費、住居・光熱費	(3.5)	(△5.9)	(3.8)	(6.9)	
			612,700	576,800	598,900	640,400	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(9.8)	(15.9)	(16.5)	(15.7)	
			387,400	448,900	522,800	604,700	
	費	計	(5.9)	(2.6)	(9.4)	(11.0)	
			1,000,100	1,025,700	1,121,700	1,245,100	
合 計			(1.0)	(△2.2)	(4.3)	(1.9)	
			2,243,700	2,194,300	2,289,100	2,331,600	
家計消費支出指数(年度)			(△2.3)	(0.0)	(0.2)	(△2.5)	
			97.7	97.7	97.9	95.5	
消費者物価指数(年度)			(△2.2)	(△0.3)	(3.9)	(0.2)	
			97.8	97.5	101.2	101.4	

- (注) 1. ( )は、それぞれ前回調査からの増減率である。  
 2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成20年度の指数を100とする。  
 3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図 学生生活費の増減率の推移（大学(昼間部)）



(3) 設置者別の学生生活費 (C表)

①大学（昼間部）

学費と生活費を合わせた学生生活費の合計では、私立が国立より約49万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。生活費については、国立が私立よりも高くなっているが、その差の主な要因は食費と住居・光熱費となっており、自宅以外の学生の割合が高いためと考えられる。

②短期大学（昼間部）

学生生活費の合計では、私立が公立より約51万円高くなっており、これは学費の差によるところが大きい。

③大学院

学生生活費の合計では、私立が国立より修士課程は約36万円、博士課程は約25万円、専門職学位課程は約82万円高くなっており、いずれも学費の差によるところが大きい。

C表 設置者別の学生生活費

[単位：円]

区分		学 費			生 活 費			合 計	
		授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計		
大学 (昼間部)	国立	506,700	135,800	642,500	553,300	315,900	869,200	1,511,700	
	公立	537,200	124,100	661,300	446,400	323,700	770,100	1,431,400	
	私立	1,210,000	150,900	1,360,900	314,100	328,900	643,000	2,003,900	
	平均	1,046,500	146,900	1,193,400	364,500	326,300	690,800	1,884,200	
短期大学 (昼間部)	国立	...	...	...	...	...	...	...	
	公立	425,600	93,600	519,200	321,400	267,700	589,100	1,108,300	
	私立	986,600	134,100	1,120,700	195,300	297,900	493,200	1,613,900	
	平均	957,300	132,000	1,089,300	201,800	296,200	498,000	1,587,300	
大 学 院	修士課程	国立	496,100	108,800	604,900	680,200	360,400	1,040,600	1,645,500
		公立	521,100	139,400	660,500	545,500	442,500	988,000	1,648,500
		私立	952,200	158,000	1,110,200	485,600	411,900	897,500	2,007,700
		平均	645,800	126,700	772,500	608,800	382,200	991,000	1,763,500
	博士課程	国立	408,300	195,700	604,000	883,300	685,900	1,569,200	2,173,200
		公立	482,000	200,700	682,700	896,400	857,400	1,753,800	2,436,500
		私立	661,500	240,500	902,000	768,300	757,300	1,525,600	2,427,600
		平均	475,000	207,100	682,100	855,500	713,100	1,568,600	2,250,700
	専門職 学位課程	国立	560,400	161,700	722,100	654,600	483,100	1,137,700	1,859,800
		公立	504,200	248,600	752,800	578,400	689,600	1,268,000	2,020,800
		私立	1,166,800	197,900	1,364,700	634,500	684,300	1,318,800	2,683,500
		平均	901,100	185,400	1,086,500	640,400	604,700	1,245,100	2,331,600

(4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学（昼間部）の平均では、自宅に居住して通学する者（以下「自宅」という。）が57.8%、学寮に居住する者（以下「学寮」という。）が5.2%、下宿、アパート等に居住する者（以下「アパート等」という。）が37.0%となっており、自宅の割合が最も高くなっている。

短期大学（昼間部）の平均では、自宅74.3%、学寮6.8%、アパート等18.9%と自宅の割合が最も高く、全ての学校区分の中でも、その割合は最も高くなっている。

また、大学院については、修士課程の平均で自宅43.6%、学寮3.6%、アパート等52.8%、博士課程の平均で自宅48.1%、学寮3.0%、アパート等48.9%、専門職学位課程の平均で自宅60.4%、学寮4.6%、アパート等35.0%となっている。

さらに設置者別に見てみると、いずれの学校区分でも、私立は自宅の割合が高く、国公立、特に国立ではアパート等の割合が高い傾向となっている。

D 表 居住形態別学生数の割合

[単位：%]

区分		自宅	学寮	アパート等	計	
大学 (昼間部)	国立	31.9	5.9	62.1	100.0	
	公立	40.1	3.7	56.2	100.0	
	私立	64.7	5.1	30.2	100.0	
	平均	57.8	5.2	37.0	100.0	
短期大学 (昼間部)	国立	...	...	...	...	
	公立	45.7	7.9	46.4	100.0	
	私立	75.8	6.7	17.5	100.0	
	平均	74.3	6.8	18.9	100.0	
大 学	修士課程	国立	33.1	4.4	62.4	100.0
		公立	48.3	3.7	47.9	100.0
		私立	60.8	2.0	37.2	100.0
		平均	43.6	3.6	52.8	100.0
院	博士課程	国立	43.4	3.6	53.0	100.0
		公立	55.3	2.3	42.4	100.0
		私立	58.8	1.6	39.5	100.0
		平均	48.1	3.0	48.9	100.0
院	専門職 学位課程	国立	48.3	7.5	44.1	100.0
		公立	69.8	7.0	23.3	100.0
		私立	67.5	2.5	30.0	100.0
		平均	60.4	4.6	35.0	100.0

## (5) 居住形態別の学生生活費 (E表、第2図)

## ①大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、国・公・私立いずれもアパート等が最も高く、国立の自宅を基準とした場合の1.60～2.29倍となっており、自宅との差額は、それぞれ国立約65万円、公立約57万円、私立約73万円となっている。学寮は、国・公・私立いずれも自宅とアパート等の中間にあつて、国立の自宅を基準とした場合の1.21～2.03倍となっている。

自宅と学寮・アパート等の学生生活費の差は、主として食費及び住居・光熱費による差が大きく、これを大学(昼間部)の平均を例にとって月額で示したものが第2図である。また、学寮とアパート等の差についても、住居・光熱費による差が大きく、学寮と比較すると、アパート等で月額約1.3万円高くなっている。

## ②短期大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、公・私立いずれもアパート等が高く、公立の自宅を基準とした場合の1.54～2.27倍となっており、自宅との差額は、それぞれ公立約47万円、私立約49万円となっている。

## ③大学院

居住形態別の学生生活費は、すべての課程において、国・公・私立いずれもアパート等が最も高くなっている。

大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)と同様に、国・公・私立の中でも私立のアパート等が最も高く、国立の自宅を基準とした場合の2.00倍(修士課程)、1.50倍(博士課程)、2.02倍(専門職学位課程)となっている。

E表 居住形態別学生生活費

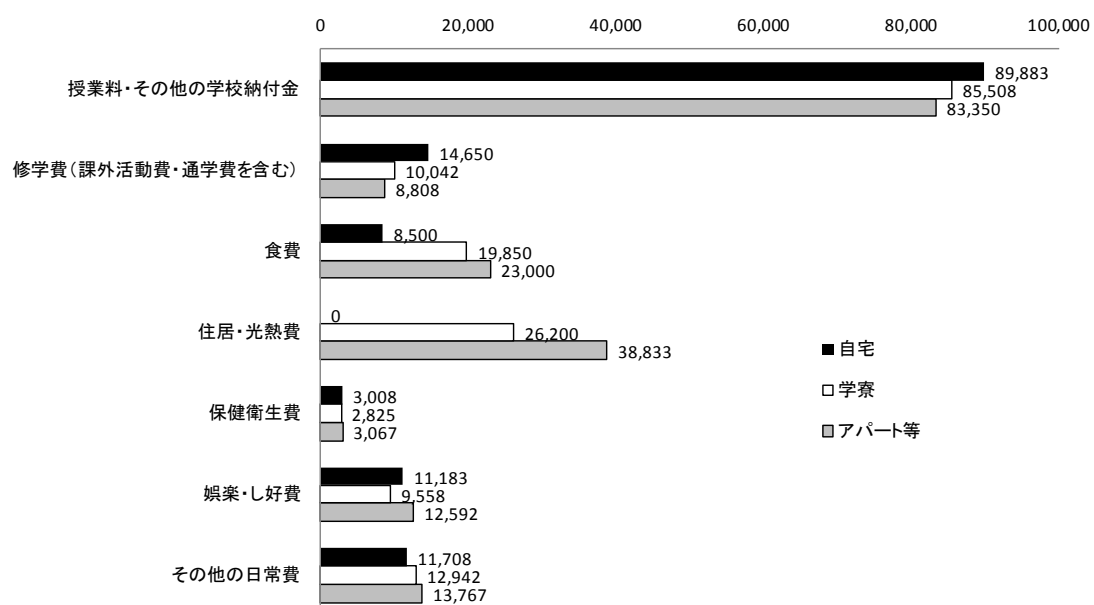
[単位：円]

区 分		自 宅		学 寮		アパート等		
大学 (昼間部)	国立	1,090,100	(1.00)	1,356,200	(1.24)	1,743,500	(1.60)	
	公立	1,101,100	(1.01)	1,314,300	(1.21)	1,674,600	(1.54)	
	私立	1,759,400	(1.61)	2,215,500	(2.03)	2,492,500	(2.29)	
	平均	1,667,200		2,003,100		2,201,000		
短期大学 (昼間部)	国立	...	...	...	...	...	...	
	公立	876,100	(1.00)	1,052,600	(1.20)	1,346,200	(1.54)	
	私立	1,501,100	(1.71)	1,903,600	(2.17)	1,992,200	(2.27)	
	平均	1,481,000		1,851,700		1,909,900		
大 学 院	修士課程	国立	1,198,600	(1.00)	1,471,000	(1.23)	1,865,600	(1.56)
		公立	1,374,500	(1.15)	1,325,300	(1.11)	1,890,100	(1.58)
		私立	1,726,000	(1.44)	2,244,200	(1.87)	2,401,300	(2.00)
		平均	1,457,900		1,601,600		1,991,000	
	博士課程	国立	1,888,800	(1.00)	1,687,900	(0.89)	2,323,300	(1.23)
		公立	2,123,900	(1.12)	1,429,900	(0.76)	2,665,700	(1.41)
		私立	2,020,000	(1.07)	2,136,800	(1.13)	2,826,100	(1.50)
		平均	1,949,100		1,727,700		2,441,300	
	専門職 学位課程	国立	1,475,800	(1.00)	1,673,800	(1.13)	2,135,500	(1.45)
		公立	1,817,300	(1.23)	1,324,500	(0.90)	2,523,700	(1.71)
		私立	2,483,900	(1.68)	2,442,600	(1.66)	2,988,000	(2.02)
		平均	2,154,700		1,933,300		2,563,900	

※ ( )は、国立(短期大学では公立)の自宅を基準(1.00)とした場合の比率である。

第2図 居住形態別学生生活費の支出状況(月額)〔大学(昼間部)平均〕

[単位：円]



(注) 自宅生は住居・光熱費のデータなし。

## (6) 地域別・居住形態別学生生活費 (F表、第3図)

大学(昼間部)について学生生活費を地域別に比較すると、国公私立平均では、「東京圏(注1)」が最も高く、「京阪神(注1)」、「その他」の順となっている。設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約265.8万円となっている。

短期大学(昼間部)についても、国公私立平均では、「東京圏」が最も高く、設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約219.1万円となっている。

大学院のうち修士課程及び専門職学位課程については、国公私立平均では、「東京圏」が最も高くなっているが、博士課程における国公私立平均では地域別による大きな差は見られない。

F表 地域別・居住形態別学生生活費

区 分		東京圏			京阪神			その他			全国平均				
		学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計		
大学 (昼間部)	国 立	国公私立平均	1,371,100	688,800	2,059,900	1,215,200	601,400	1,816,600	1,056,500	718,900	1,775,400	1,193,400	690,800	1,884,200	
		自宅	725,000	432,300	1,157,300	707,100	385,300	1,092,400	693,200	383,900	1,077,100	699,600	390,500	1,090,100	
		学寮	595,800	1,113,900	1,709,700	629,500	877,000	1,506,500	521,200	772,500	1,293,700	539,300	816,900	1,356,200	
		アパート等	629,100	1,309,300	1,938,400	653,500	1,267,400	1,920,900	619,800	1,090,300	1,710,100	623,200	1,120,300	1,743,500	
		平均	671,100	892,900	1,564,000	676,400	844,900	1,521,300	634,800	869,700	1,504,500	642,500	869,200	1,511,700	
	公 立	自宅	743,600	399,300	1,142,900	731,000	397,700	1,128,700	703,700	387,700	1,091,400	711,000	390,100	1,101,100	
		学寮	641,000	904,000	1,545,000	566,900	706,400	1,273,300	617,800	702,900	1,320,700	609,400	704,900	1,314,300	
		アパート等	641,900	1,284,000	1,925,900	635,400	1,177,400	1,812,800	628,000	1,025,200	1,653,200	629,000	1,045,600	1,674,600	
		平均	702,500	754,700	1,457,200	686,000	705,300	1,391,300	655,400	779,400	1,434,800	661,300	770,100	1,431,400	
		国公私立平均	1,407,100	440,200	1,847,300	1,342,000	386,000	1,728,000	1,261,000	400,800	1,661,800	1,342,800	416,600	1,759,400	
	私 立	自宅	1,267,300	921,900	2,189,200	1,028,500	748,800	1,777,300	1,508,800	867,100	2,375,900	1,340,500	875,000	2,215,500	
		学寮	1,445,100	1,212,800	2,657,900	1,326,800	1,009,900	2,336,700	1,387,600	1,001,300	2,388,900	1,403,200	1,089,300	2,492,500	
		アパート等	1,410,700	678,300	2,089,000	1,324,800	558,300	1,883,100	1,319,300	637,200	1,956,500	1,360,900	643,000	2,003,900	
		平均	1,195,500	534,100	1,729,600	1,154,000	480,200	1,634,200	1,038,900	489,700	1,528,600	1,089,300	498,000	1,587,300	
		国公私立平均	524,700	373,000	897,700	-	-	-	565,600	309,700	875,300	563,700	312,400	876,100	
短期大学 (昼間部)	公 立	自宅	539,800	1,207,200	1,747,000	-	-	-	482,800	858,300	1,341,100	483,600	862,600	1,346,200	
		アパート等	1,206,600	386,000	1,592,600	1,180,200	372,500	1,552,700	1,103,900	349,200	1,453,100	1,139,700	361,400	1,501,100	
	私 立	自宅	1,139,500	1,051,900	2,191,400	1,049,200	963,500	2,012,700	1,012,200	902,600	1,914,800	1,046,900	945,300	1,992,200	
		アパート等	971,100	967,800	1,938,900	729,700	1,022,500	1,752,200	667,200	993,600	1,660,800	772,500	991,000	1,763,500	
	国公私立平均	691,800	562,100	1,253,900	700,100	504,800	1,204,900	660,300	513,600	1,173,900	675,800	522,800	1,198,600		
大 学 院	修士課程	国 立	自宅	605,600	1,524,500	2,130,100	583,200	1,365,100	1,948,300	569,800	1,218,200	1,788,000	577,300	1,288,300	1,865,600
			アパート等	708,500	681,200	1,389,700	749,000	585,100	1,334,100	720,000	670,300	1,390,300	726,800	647,700	1,374,500
		公 立	自宅	612,300	1,699,200	2,311,500	629,200	1,292,700	1,921,900	613,200	1,235,200	1,848,400	616,500	1,273,600	1,890,100
			アパート等	1,176,700	566,900	1,743,600	1,141,000	603,300	1,744,300	1,085,900	574,100	1,660,000	1,152,600	573,400	1,726,000
		私 立	自宅	1,095,400	1,417,600	2,513,000	994,600	1,294,900	2,289,500	986,500	1,226,800	2,213,300	1,052,400	1,348,900	2,401,300
	アパート等		740,400	1,511,600	2,252,000	644,200	1,597,500	2,241,700	656,800	1,597,200	2,254,000	682,100	1,568,600	2,250,700	
	博士課程	国 立	自宅	685,600	935,400	1,621,000	753,900	1,144,800	1,898,700	750,000	1,293,900	2,043,900	732,000	1,156,800	1,888,800
			アパート等	518,000	1,827,100	2,345,100	541,800	1,796,900	2,338,700	583,400	1,724,300	2,307,700	559,500	1,763,800	2,323,300
		公 立	自宅	795,000	995,500	1,790,500	729,700	1,193,400	1,923,100	801,500	1,548,400	2,349,900	777,600	1,346,300	2,123,900
			アパート等	636,100	2,145,000	2,781,100	589,000	2,431,200	3,020,200	662,700	1,825,300	2,488,000	639,500	2,026,200	2,665,700
		私 立	自宅	958,800	1,061,900	2,020,700	948,700	1,002,800	1,951,500	934,400	1,127,300	2,061,700	953,300	1,066,700	2,020,000
	アパート等		856,800	2,018,200	2,875,000	875,700	1,642,000	2,517,700	861,400	2,000,700	2,862,100	860,300	1,965,800	2,826,100	
	国公私立平均	1,304,200	1,353,200	2,657,400	945,400	1,125,200	2,070,600	844,900	1,167,700	2,012,600	1,086,500	1,245,100	2,331,600		
	専門職学位課程	国 立	自宅	852,500	677,600	1,530,100	787,500	654,900	1,442,400	748,400	721,900	1,470,300	780,900	694,900	1,475,800
			アパート等	734,600	1,748,400	2,483,000	735,100	1,441,300	2,176,400	678,600	1,270,500	1,949,100	708,800	1,426,700	2,135,500
公 立		自宅	687,500	946,200	1,633,700	1,016,800	615,600	1,632,400	682,300	1,964,000	2,646,300	786,200	1,031,100	1,817,300	
		アパート等	693,800	2,165,200	2,859,000	857,600	925,700	1,783,300	792,700	2,005,000	2,797,700	756,600	1,767,100	2,523,700	
私 立		自宅	1,499,400	1,052,900	2,552,300	1,263,200	951,700	2,214,900	1,302,800	1,264,200	2,567,000	1,416,900	1,067,000	2,483,900	
	アパート等	1,398,400	1,779,300	3,177,700	1,048,500	1,441,100	2,489,600	1,068,200	1,621,600	2,689,800	1,292,100	1,695,900	2,988,000		

(注1)「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

(注2) 短期大学(昼間部)、大学院の各課程の学寮については、ページの都合で省略した。

(注3) 大学院は、「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。





G表 男女別・居住形態別学生生活費

[単位:円]

区分			学 費			生 活 費			合 計	
			授業料 学校納付金 (割合)	修学費 課外活動費 通学費(割合)	小 計	食 費 住居・光熱費 (割合)	保健衛生費 娯楽嗜好費 その他の日常費(割合)	小 計		
大学(屋間部)	立	国	自宅学寮	511,700 (47.0%)	179,100 (16.5%)	690,800	118,700 (10.9%)	278,600 (25.6%)	397,300	1,088,100
			アパート等	422,100 (31.2%)	105,100 (7.8%)	527,200	519,200 (38.4%)	305,000 (22.6%)	824,200	1,351,400
			509,800 (29.7%)	108,500 (6.3%)	618,300	778,000 (45.4%)	318,600 (18.6%)	1,096,600	1,714,900	
		女	自宅学寮	511,700 (46.8%)	199,100 (18.2%)	710,800	88,500 (8.1%)	293,300 (26.8%)	381,800	1,092,600
			アパート等	455,200 (33.4%)	105,700 (7.7%)	560,900	470,400 (34.5%)	333,400 (24.4%)	803,800	1,364,700
			513,500 (28.6%)	118,400 (6.6%)	631,900	806,300 (45.0%)	355,500 (19.8%)	1,161,800	1,793,700	
	私	男	自宅学寮	1,159,300 (66.8%)	172,100 (9.9%)	1,331,400	109,600 (6.3%)	295,700 (17.0%)	405,300	1,736,700
			アパート等	1,178,800 (54.8%)	137,400 (6.4%)	1,316,200	550,200 (25.6%)	285,200 (13.3%)	835,400	2,151,600
			1,331,900 (54.1%)	100,800 (4.1%)	1,432,700	695,500 (28.3%)	333,000 (13.5%)	1,028,500	2,461,200	
		女	自宅学寮	1,176,800 (66.1%)	176,500 (9.9%)	1,353,300	95,500 (5.4%)	331,400 (18.6%)	426,900	1,780,200
			アパート等	1,249,500 (54.7%)	116,900 (5.1%)	1,366,400	596,200 (26.1%)	321,100 (14.1%)	917,300	2,283,700
			1,262,800 (50.0%)	109,100 (4.3%)	1,371,900	755,200 (29.9%)	398,400 (15.8%)	1,153,600	2,525,500	
短期大学(屋間部)	立	公	自宅学寮	415,900 (53.1%)	137,500 (17.5%)	553,400	40,400 (5.2%)	189,800 (24.2%)	230,200	783,600
			アパート等	379,000 (25.6%)	15,000 (1.0%)	394,000	950,000 (64.2%)	135,000 (9.1%)	1,085,000	1,479,000
			385,300 (29.6%)	58,800 (4.5%)	444,100	584,200 (44.9%)	271,500 (20.9%)	855,700	1,299,800	
		女	自宅学寮	425,900 (48.2%)	138,800 (15.7%)	564,700	53,700 (6.1%)	265,300 (30.0%)	319,000	883,700
			アパート等	412,200 (39.3%)	58,800 (5.6%)	471,000	319,700 (30.5%)	258,500 (24.6%)	578,200	1,049,200
			434,300 (32.1%)	54,600 (4.0%)	488,900	585,500 (43.3%)	278,100 (20.6%)	863,600	1,352,500	
	私	男	自宅学寮	1,050,300 (66.4%)	161,100 (10.2%)	1,211,400	82,000 (5.2%)	289,200 (18.3%)	371,200	1,582,600
			アパート等	850,900 (53.9%)	49,700 (3.1%)	900,600	456,600 (28.9%)	220,600 (14.0%)	677,200	1,577,800
			987,300 (52.0%)	55,400 (2.9%)	1,042,700	549,500 (28.9%)	306,400 (16.1%)	855,900	1,898,600	
		女	自宅学寮	984,000 (65.9%)	148,700 (10.0%)	1,132,700	69,400 (4.6%)	291,100 (19.5%)	360,500	1,493,200
			アパート等	1,035,700 (53.0%)	94,000 (4.8%)	1,129,700	495,100 (25.3%)	328,300 (16.8%)	823,400	1,953,100
			959,900 (47.8%)	87,500 (4.4%)	1,047,400	635,400 (31.7%)	323,800 (16.1%)	959,200	2,006,600	
大学院修士課程	立	国	自宅学寮	502,300 (43.5%)	158,800 (13.8%)	661,100	154,500 (13.4%)	338,300 (29.3%)	492,800	1,153,900
			アパート等	427,000 (29.6%)	94,500 (6.6%)	521,500	585,800 (40.6%)	334,000 (23.2%)	919,800	1,441,300
			499,600 (27.1%)	71,500 (3.9%)	571,100	929,200 (50.5%)	341,000 (18.5%)	1,270,200	1,841,300	
		女	自宅学寮	491,900 (37.8%)	217,500 (16.7%)	709,400	156,700 (12.0%)	434,500 (33.4%)	591,200	1,300,600
			アパート等	452,800 (28.7%)	110,600 (7.0%)	563,400	499,400 (31.6%)	517,600 (32.8%)	1,017,000	1,580,400
			497,700 (25.5%)	102,100 (5.2%)	599,800	943,100 (48.3%)	411,500 (21.1%)	1,354,600	1,954,400	
	私	男	自宅学寮	973,700 (56.8%)	189,300 (11.0%)	1,163,000	165,100 (9.6%)	387,100 (22.6%)	552,200	1,715,200
			アパート等	834,100 (41.2%)	115,500 (5.7%)	949,600	774,400 (38.3%)	299,600 (14.8%)	1,074,000	2,023,600
			946,400 (40.2%)	100,700 (4.3%)	1,047,100	926,400 (39.3%)	382,400 (16.2%)	1,308,800	2,355,900	
		女	自宅学寮	934,500 (53.5%)	198,700 (11.4%)	1,133,200	159,400 (9.1%)	452,800 (25.9%)	612,200	1,745,400
			アパート等	1,045,800 (41.3%)	135,700 (5.4%)	1,181,500	906,500 (35.8%)	441,600 (17.5%)	1,348,100	2,529,600
			935,300 (37.7%)	126,600 (5.1%)	1,061,900	942,300 (38.0%)	478,700 (19.3%)	1,421,000	2,482,900	
大学院博士課程	立	国	自宅学寮	448,500 (25.0%)	263,100 (14.7%)	711,600	300,600 (16.8%)	779,500 (43.5%)	1,080,100	1,791,700
			アパート等	346,600 (20.5%)	156,800 (9.3%)	503,400	719,100 (42.6%)	465,900 (27.6%)	1,185,000	1,688,400
			388,800 (17.1%)	158,600 (7.0%)	547,400	1,120,300 (49.3%)	604,800 (26.6%)	1,725,100	2,272,500	
		女	自宅学寮	481,300 (23.2%)	289,200 (14.0%)	770,500	304,300 (14.7%)	997,300 (48.1%)	1,301,600	2,072,100
			アパート等	232,000 (13.8%)	210,100 (12.5%)	442,100	652,000 (38.7%)	592,400 (35.1%)	1,244,400	1,686,500
			408,200 (16.4%)	191,100 (7.7%)	599,300	1,179,800 (47.4%)	710,900 (28.6%)	1,890,700	2,490,000	
	私	男	自宅学寮	656,900 (34.2%)	279,200 (14.5%)	936,100	305,200 (15.9%)	680,500 (35.4%)	985,700	1,921,800
			アパート等	610,600 (28.7%)	120,300 (5.6%)	730,900	717,900 (33.7%)	681,100 (32.0%)	1,399,000	2,129,900
			654,800 (23.0%)	210,300 (7.4%)	865,100	1,248,300 (43.9%)	728,900 (25.6%)	1,977,200	2,842,300	
		女	自宅学寮	695,200 (32.0%)	284,900 (13.1%)	980,100	264,500 (12.2%)	927,600 (42.7%)	1,192,100	2,172,200
			アパート等	518,800 (24.1%)	115,100 (5.4%)	633,900	910,800 (42.3%)	606,600 (28.2%)	1,517,400	2,151,300
			654,000 (23.4%)	197,500 (7.1%)	851,500	1,178,600 (42.2%)	766,100 (27.4%)	1,944,700	2,796,200	
大学院専門職学位課程	立	国	自宅学寮	596,700 (42.0%)	199,500 (14.1%)	796,200	202,200 (14.2%)	421,000 (29.7%)	623,200	1,419,400
			アパート等	359,700 (23.0%)	127,200 (8.1%)	486,900	546,200 (35.0%)	528,400 (33.8%)	1,074,600	1,561,500
			584,600 (27.5%)	130,800 (6.2%)	715,400	979,500 (46.1%)	429,600 (20.2%)	1,409,100	2,124,500	
		女	自宅学寮	542,700 (35.2%)	220,300 (14.3%)	763,000	186,900 (12.1%)	591,400 (38.4%)	778,300	1,541,300
			アパート等	410,200 (22.3%)	196,500 (10.7%)	606,700	604,800 (32.9%)	628,500 (34.2%)	1,233,300	1,840,000
			562,300 (26.1%)	133,100 (6.2%)	695,400	939,300 (43.6%)	521,800 (24.2%)	1,461,100	2,156,500	
	私	男	自宅学寮	1,194,600 (49.8%)	232,300 (9.7%)	1,426,900	289,800 (12.1%)	682,200 (28.4%)	972,000	2,398,900
			アパート等	1,307,700 (53.4%)	157,900 (6.5%)	1,465,600	673,600 (27.5%)	308,500 (12.6%)	982,100	2,447,700
			1,148,100 (37.9%)	167,200 (5.5%)	1,315,300	1,116,900 (36.9%)	598,600 (19.8%)	1,715,500	3,030,800	
		女	自宅学寮	1,178,800 (44.8%)	220,300 (8.4%)	1,399,100	286,000 (10.9%)	946,000 (36.0%)	1,232,000	2,631,100
			アパート等	995,900 (40.9%)	145,500 (6.0%)	1,141,400	948,100 (39.0%)	343,700 (14.1%)	1,291,800	2,433,200
			1,102,700 (38.0%)	144,400 (5.0%)	1,247,100	1,104,300 (38.0%)	553,800 (19.1%)	1,658,100	2,905,200	

※大学屋間部、大学院の各課程の公立については、ページの都合で省略した。

## (8) 学年別の学生生活費 (H表)

学年別の学生生活費については、大学(昼間部)、短期大学(昼間部)、修士課程では、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっており、内訳を見ると、いずれの学校区分も、生活費が、高学年になるにつれ高くなっている。

また、大学(昼間部)では、1年次から4年次と比較して、5年次、6年次の学生生活費が特に高くなっているが、これは、5年次、6年次が医、歯、獣医、薬学部の学生であり、学費が高くなっているためである。

博士課程についても、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっているが、1年次から3年次と比較して、4年次の生活費が特に高くなっている。これは、4年次が医・歯学等の4年制博士課程の学生であるためである。

H表 学年別の学生生活費

[単位:円]

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
大 学 部 ( 昼 間 部 )	学 費	1,168,700	1,158,900	1,134,700	1,114,600	2,390,100	2,210,700	
	生活費	552,000	664,600	699,700	749,000	908,000	961,000	
	計	1,720,700	1,823,500	1,834,400	1,863,600	3,298,100	3,171,700	
短 期 大 学 ( 昼 間 部 )	学 費	1,062,100	1,052,400	1,161,300	...	...	...	
	生活費	446,400	504,900	628,300	...	...	...	
	計	1,508,500	1,557,300	1,789,600	...	...	...	
大 学 院	修 士 課 程	学 費	779,600	758,100	...	...	...	...
		生活費	954,800	1,013,300	...	...	...	...
		計	1,734,400	1,771,400	...	...	...	...
	博 士 課 程	学 費	680,200	680,400	660,600	794,000	...	...
		生活費	1,437,800	1,552,200	1,546,800	2,390,300	...	...
		計	2,118,000	2,232,600	2,207,400	3,184,300	...	...
	専 門 職 学 位 課 程	学 費	1,038,900	1,097,300	1,084,600	...	...	...
		生活費	1,246,900	1,304,600	924,900	...	...	...
		計	2,285,800	2,401,900	2,009,500	...	...	...

## 2. 学生の収入の状況（I表、第4図）

学生生活費は、家庭からの給付、奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが、それぞれの学校区分において、その収入の状況には差異が見られる（I表、第4図参照）。

また、前回調査と収入の状況を比較したところ、すべての学校区分において、金額及び収入総額に占める割合ともに、アルバイトが増加している一方、奨学金が減少しており、修士課程以外においては、家庭からの給付についても減少している。

### ① 大学（昼間部）

収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く60.1%となっているが、前回調査と比較すると0.5ポイント減となっている。

収入総額に対する割合を設置者別に見てみると、奨学金及びアルバイトは、公立が国立・私立より3.2～5.2ポイント高い一方で、家庭からの給付は公立のほうが8.2ポイント低くなっている。収入総額は私立より公立のほうが約53.2万円低くなっているが、これは、家庭からの給付の差によるところが大きい。

また、収入総額に対する割合を男女別に見てみると、収入総額に対する割合では大きな差は見られないが、収入総額は男子より女子のほうが約4.7万円高くなっており、これも家庭からの給付の差によるところが大きい。

### ② 短期大学（昼間部）

収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く54.8%となっているが、前回調査と比較すると0.6ポイント減となっている。また、大学（昼間部）の収入総額に対する割合と比較したところ、収入総額に占める奨学金の割合は大学（昼間部）より3.6ポイント高い一方、家庭からの給付は5.3ポイント低くなっている。

### ③ 大学院<sup>(※)</sup>

修士課程の収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く49.1%となっており、前回調査と比較すると1.3ポイント増となっている。一方で、博士課程及び専門職学位課程の収入総額に対する割合では、定職・その他が最も高く、それぞれ32.4%（博士課程）、44.8%（専門職学位課程）となっており、前回調査と比較するとそれぞれ2.1ポイント増（博士課程）、9.4ポイント増（専門職学位課程）となっている。

博士課程については、すべての学校区分の中で、収入総額に占める奨学金の割合、及びアルバイトの割合が最も高く、30.7%（奨学金）、24.2%（アルバイト）となっており、その一方で、収入総額に占める家庭からの給付の割合は、すべての学校区分の中で最も低く、12.7%となっている。

専門職学位課程については、すべての学校区分の中で、収入総額に占める定職・その他の割合が最も高く、44.8%となっており特に高い割合となっている。その一方で、収入総額に占めるアルバイトの割合は、すべての学校区分の中で最も低く、5.1%となっている。また、大学院の修士課程及び博士課程と比較すると、奨学金の占める割合も低くなっている。

(※) 大学院については、「配偶者あり」と回答したものを除き集計していることや社会人学生が大学昼間部や短期大学昼間部に比べて多いこと等、資料の取扱いには留意を要する。

I表 収入及びその構成割合

[単位:円]

区分		家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大学(屋間部)	国立	(60.4) 976,100	(18.4) 297,900	(18.8) 303,300	(2.3) 37,500	(100.0) 1,614,800
	公立	(52.2) 806,800	(22.8) 353,300	(22.9) 354,500	(2.1) 32,000	(100.0) 1,546,600
	私立	(60.4) 1,255,200	(19.6) 408,200	(17.7) 368,700	(2.2) 46,100	(100.0) 2,078,200
	男	(59.8) 1,162,000	(19.7) 383,000	(18.2) 353,500	(2.3) 44,200	(100.0) 1,942,700
	女	(60.3) 1,199,900	(19.5) 387,700	(18.0) 358,800	(2.2) 43,400	(100.0) 1,989,800
	平均	(60.1) 1,180,700	(19.6) 385,300	(18.1) 356,100	(2.2) 43,800	(100.0) 1,965,900
	短期大学(屋間部)	(54.8) 913,900	(23.2) 387,500	(17.8) 297,200	(4.1) 69,200	(100.0) 1,667,800
大学院	修士課程	(49.1) 930,100	(24.2) 458,700	(15.1) 286,900	(11.6) 219,900	(100.0) 1,895,600
	博士課程	(12.7) 373,100	(30.7) 901,100	(24.2) 711,500	(32.4) 953,500	(100.0) 2,939,200
	専門職学位課程	(31.1) 862,300	(19.0) 527,300	(5.1) 141,600	(44.8) 1,244,300	(100.0) 2,775,500

(注)1. ( )は、収入総額に占める割合である。

2. 大学院の「アルバイト」には、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)を含む。

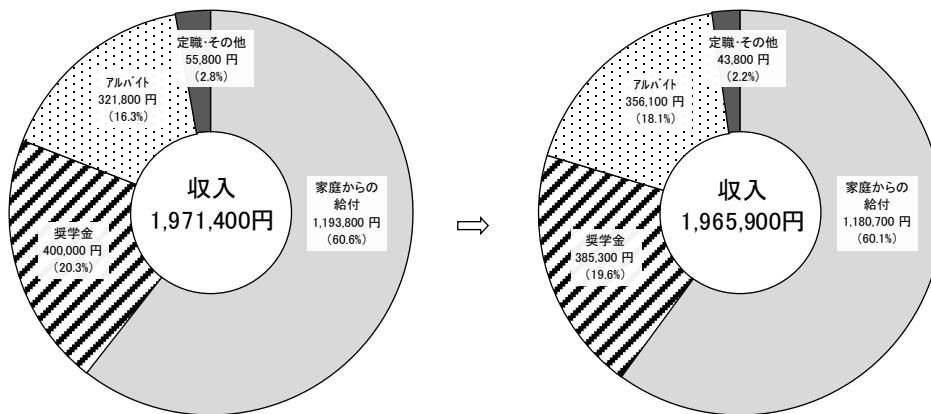
3. 大学院の「配偶者あり」と回答した者は、集計に含まない。

第4図 収入額内訳

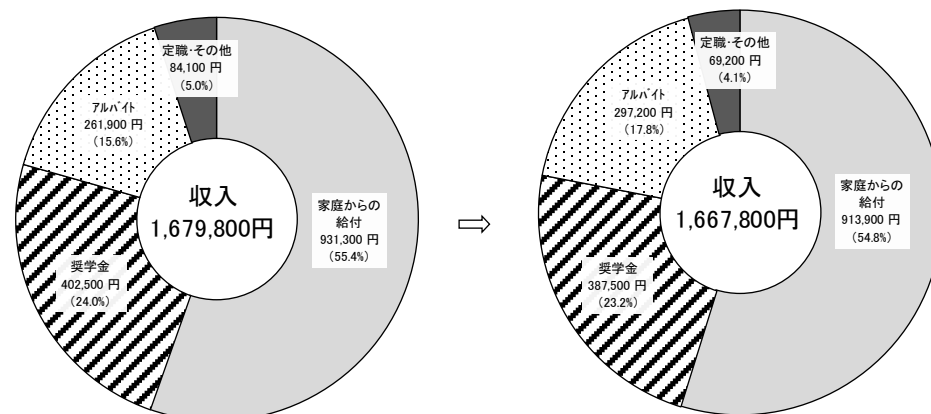
平成26年度

平成28年度

【大学(屋間部)】

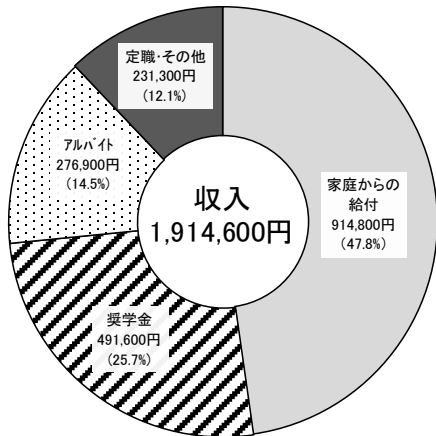


【短期大学(屋間部)】

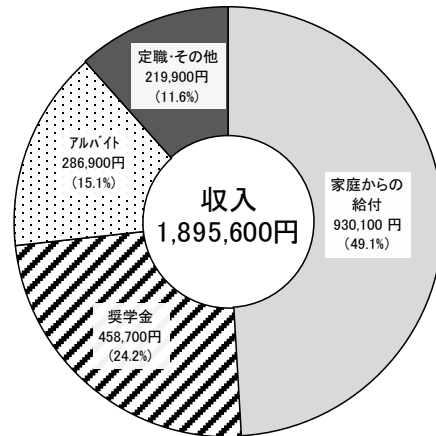


平成26年度

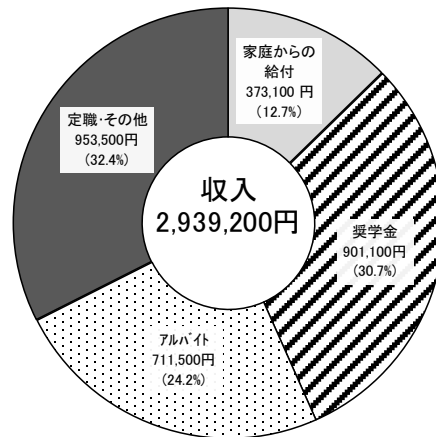
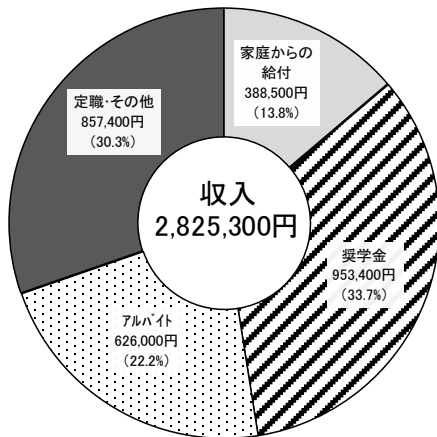
【大学院修士課程】



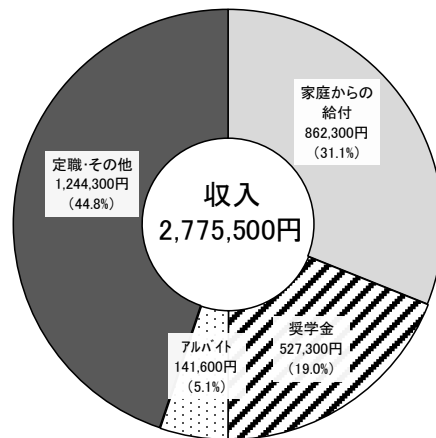
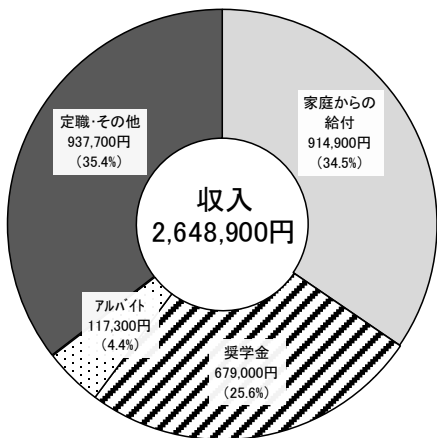
平成28年度



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



### 3. 家庭からの給付額等

#### (1) 家庭からの給付 (J表)

家庭からの給付額について平成 20 年度以降で見ると、大学（昼間部）及び短期大学（昼間部）では減少が続いており、前回調査と比較すると、それぞれ約 1.3 万円（大学（昼間部））、約 1.7 万円（短期大学（昼間部））減少している。

次に、学生生活費（支出額）を分母とした家庭からの給付の割合は、大学（昼間部）62.7%、短期大学（昼間部）57.6%、修士課程 52.7%、博士課程 16.6%、専門職学位課程 37.0%となっており、大学（昼間部）が 60%台である一方、博士課程及び専門職学位課程の割合は特に低くなっている。また、この割合を平成 20 年度以降で見ると、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では減少が続いており、前回調査と比較すると、それぞれ 1.4 ポイント減（大学（昼間部））、1.3 ポイント減（短期大学（昼間部））、さらに平成 20 年度と比較すると 15.3 ポイント減（大学（昼間部））、19.1 ポイント減（短期大学（昼間部））となっている。

**J表 家庭からの給付額の推移**

[単位:円]

区分		年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度
大学 (昼間部)	家庭からの給付額		1,449,400	1,227,500	1,215,200	1,193,800	1,180,700
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		78.0 %	67.1 %	64.6 %	64.1 %	62.7 %
短期大学 (昼間部)	家庭からの給付額		1,211,800	993,100	989,900	931,300	913,900
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		76.7 %	62.4 %	59.9 %	58.9 %	57.6 %
大 学 院	修士課程	家庭からの給付額	1,031,700	932,100	873,500	914,800	930,100
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	59.2 %	53.8 %	50.3 %	52.3 %	52.7 %
	博士課程	家庭からの給付額	459,000	378,800	383,300	388,500	373,100
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	22.4 %	17.9 %	18.1 %	18.0 %	16.6 %
	専門職学位課程	家庭からの給付額	1,149,200	1,039,700	993,700	914,900	862,300
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	51.7 %	46.3 %	45.3 %	40.0 %	37.0 %

#### (2) 家庭の年間平均収入 (K表)

学生の家庭の年間平均収入を設置者別に見てみると、博士課程を除いて、公立の年間平均収入額が最も低くなっており、大学（昼間部）では国立、短期大学（昼間部）及び大学院では私立の年間平均収入額が最も高くなっている。

各学校区分での金額比較では、短期大学（昼間部）での年間平均収入額が最も低く 619 万円となっており、平成 20 年度以降で見ると、短期大学（昼間部）の最も低い状況が続いている。なお、大学院の集計では、「配偶者あり」と回答した者を含めないため、調査結果を利用する際は留意が必要である。

K表 家庭の年間平均収入

[単位：千円]

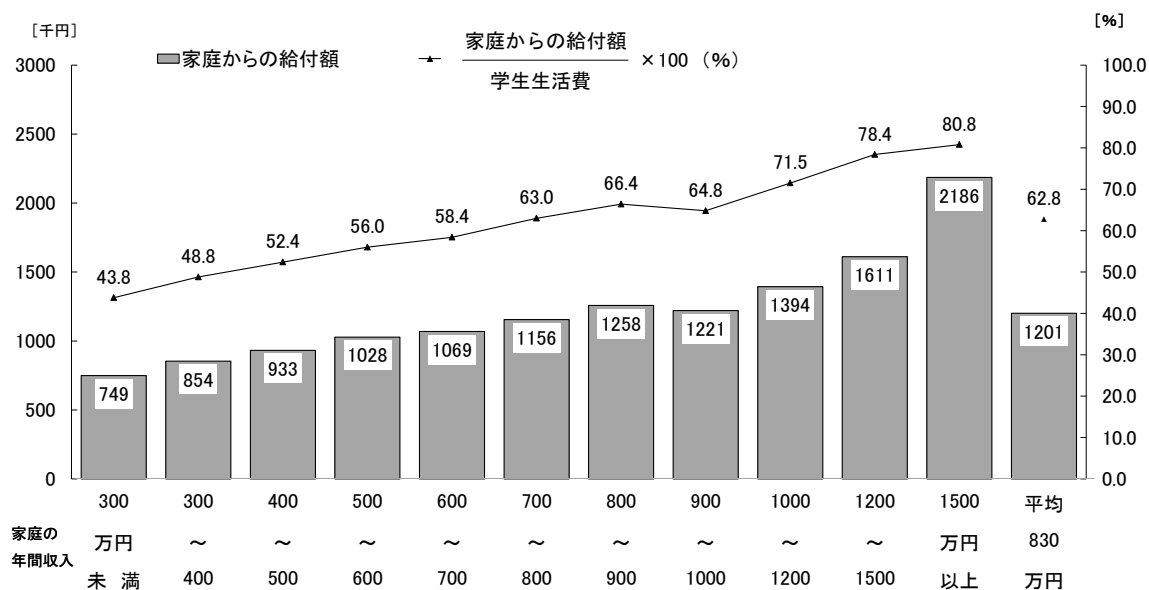
区 分		大学 (昼間部)	短期大学 (昼間部)	大 学 院		
				修士課程	博士課程	専門職 学位課程
平成28年度	国 立	8,410	...	8,370	6,710	7,500
	公 立	7,300	5,940	6,620	6,870	5,790
	私 立	8,340	6,200	8,640	9,370	8,400
	平 均	(0.7) 8,300	(△ 5.9) 6,190	(5.6) 8,350	(0.4) 7,370	(△ 0.6) 7,940
平成26年度平均		(1.5) 8,240	(3.9) 6,580	(1.5) 7,910	(6.4) 7,340	(△ 22.1) 7,990
平成24年度平均		(1.9) 8,120	(0.0) 6,330	(△ 2.0) 7,790	(△ 7.4) 6,900	(17.5) 10,260
平成22年度平均		(△ 3.0) 7,970	(△ 4.4) 6,330	(△ 1.9) 7,950	(△ 0.1) 7,450	(△ 0.5) 8,730
平成20年度平均		(△ 2.8) 8,220	(△ 6.5) 6,620	(1.5) 8,100	(△ 4.1) 7,460	(2.8) 8,770

※ ( ) は、直前の調査との比較である (単位：%)。

(3) 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合 (第5図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入額と家庭からの給付額の間関係を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に対する家庭からの給付額の割合も高くなる傾向となっている。

第5図 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(大学(昼間部))



#### (4) 家庭の収入階層区別学生数(大学昼間部)の割合 (L表)

大学(昼間部)の家庭の年間収入額別学生数の割合を、総務省の家計調査(平成28年)から全国全世帯の45～54歳の世帯主(学生の家庭の世帯主年齢と想定)を抜き出し、その五分位階層区分(集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの)を推計し、これに今回調査を当てはめて各区分別学生数を見たところ、L表のとおりとなった。

国立は第Ⅴ五分位、公立及び私立は第Ⅰ五分位に最も高い分布を示しているが、国立の第Ⅰ五分位は第Ⅴ五分位と0.5ポイント差の23.7%となっており、平均では第Ⅰ五分位に最も高い分布を示している。

L表 家庭の収入階層区別学生数の割合【45～54歳の世帯主】(大学(昼間部))

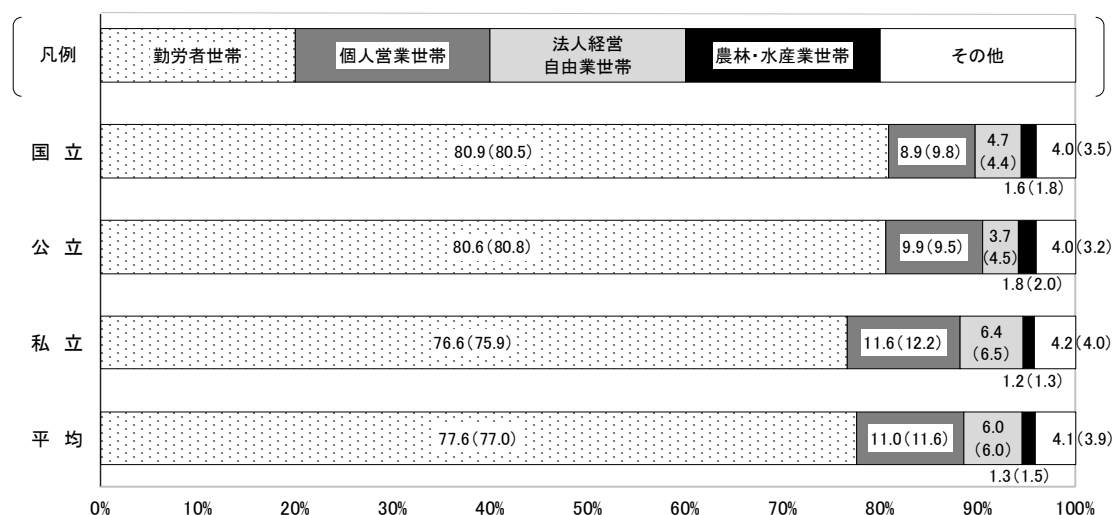
区分	[単位: %]				
	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～4,877) 5,064千円未満	千円 (4,877～6,580) 5,064千円以上 6,674千円未満	千円 (6,580～8,158) 6,674千円以上 8,092千円未満	千円 (8,158～10,281) 8,092千円以上 10,092千円未満	千円 (10,281～) 10,092千円以上
国立	(21.6) 23.7	(18.4) 13.7	(19.8) 18.0	(20.1) 20.4	(20.1) 24.2
公立	(26.7) 30.3	(21.6) 16.5	(19.9) 19.6	(16.8) 17.6	(15.0) 15.9
私立	(23.6) 27.7	(19.7) 15.5	(19.2) 17.8	(19.4) 19.4	(18.1) 19.7
平均	(23.4) 27.1	(19.6) 15.2	(19.3) 17.9	(19.4) 19.5	(18.3) 20.3

(注) ( )は、平成26年度調査の額及び割合である。

#### (5) 主たる家計支持者の世帯区別学生数(大学昼間部)の割合 (第6図)

主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合は、国・公・私立いずれも勤労者世帯の割合が高くなっており、前回調査と比較して、その傾向は変わらない。

第6図 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合(大学(昼間部))





#### 4. アルバイトの従事状況

##### (1) アルバイトの従事状況（M表、第7図）

調査時前の1年間においてアルバイトに従事した経験を有する者（以下「アルバイト従事者」という）の全学生に対する割合は、M表のとおりである。

アルバイト従事者の割合は、すべての学校区分で前回調査より増加しており、大学（昼間部）10.4ポイント増、短期大学（昼間部）12.4ポイント増、修士課程4.7ポイント増、博士課程2.4ポイント増、専門職学位課程12.0ポイント増となっている。

アルバイト従事者の内訳を見てみると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合が、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程が40%台又は40%近くであるのに対し、博士課程、専門職学位課程の割合は10%台となっている。前回調査と比較すると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合は、すべての学校区分で増加しており、「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し」についても、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、専門職学位課程において増加している。

次に、M表におけるアルバイト従事者を分母（100%）として、その経済状況の割合を表したものが第7図となる。大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程については、概ね半数が「家庭からの給付のみで修学可能」となっている一方、博士課程については、他の学校区分と比較して「家庭からの給付のみで修学可能」の割合が25.1%と低く、「家庭からの給付なし」の割合が40.9%と高くなっている。なお、大学（昼間部）を男女別に見たところ、大きな差は見られなかった。

**M表 アルバイトの従事状況**

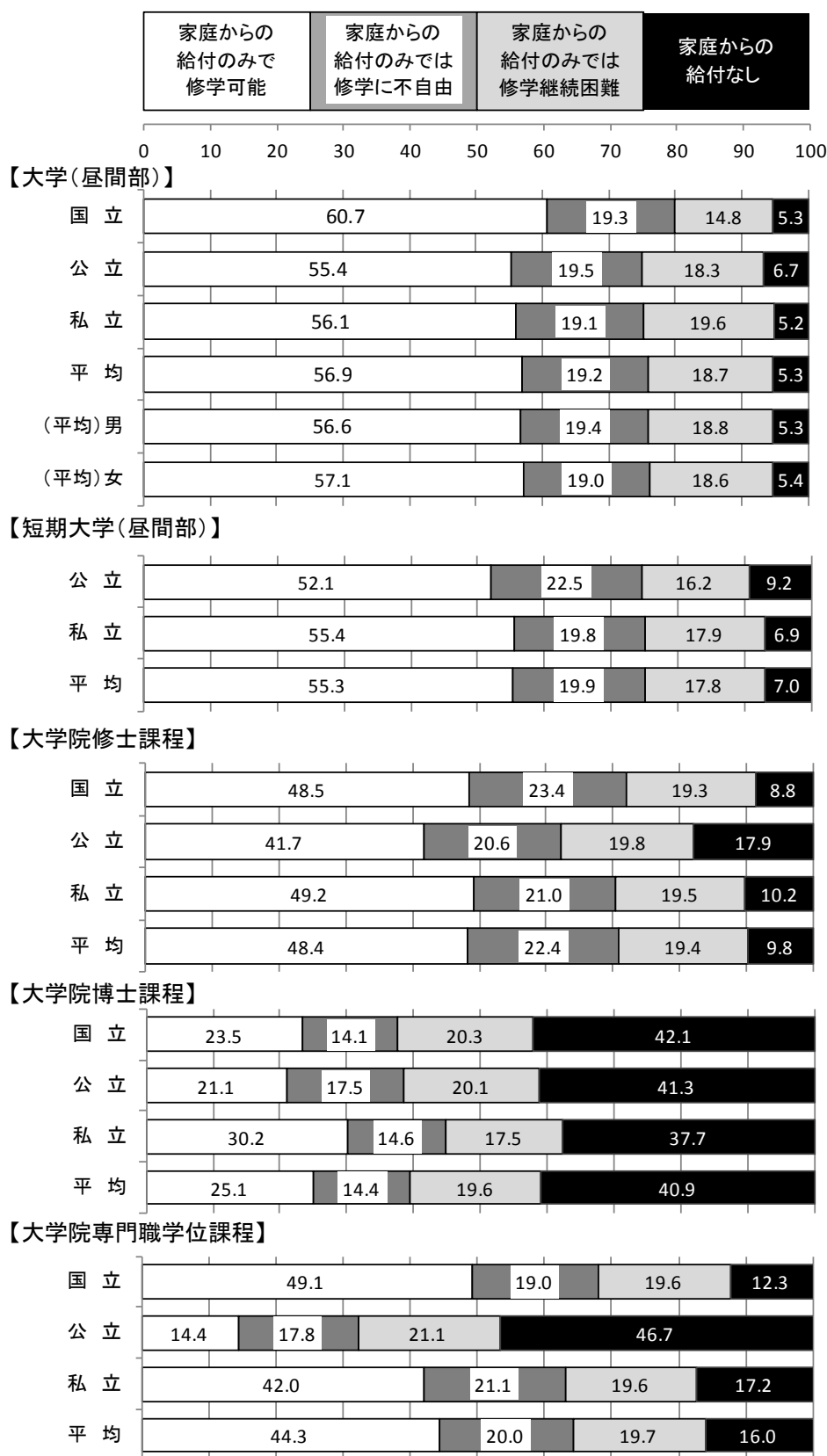
区 分		[単位: %]		
		平成 26年度	平成 28年度	
大 学 院	大 （昼 間 部） 学 部	アルバイト従事者	73.2	83.6 (10.4)
		家庭からの給付のみで修学可能	38.3	47.5 (9.2)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	35.0	36.0 (1.0)
	アルバイト非従事者	26.8	16.4 (▲10.4)	
大 学 院	短 期 大 学 （ 昼 間 部）	アルバイト従事者	70.5	82.9 (12.4)
		家庭からの給付のみで修学可能	36.8	45.8 (9.0)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	33.7	37.0 (3.3)
	アルバイト非従事者	29.5	17.1 (▲12.4)	
大 学 院	修 士 課 程	アルバイト従事者	77.6	82.3 (4.7)
		家庭からの給付のみで修学可能	34.0	39.8 (5.8)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	43.6	42.5 (▲1.1)
		アルバイト非従事者	22.4	17.7 (▲4.7)
	博 士 課 程	アルバイト従事者	68.6	71.0 (2.4)
		家庭からの給付のみで修学可能	14.7	17.8 (3.1)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	53.9	53.1 (▲0.8)
		アルバイト非従事者	31.4	29.0 (▲2.4)
	専 門 職 学 位 課 程	アルバイト従事者	31.9	43.9 (12.0)
		家庭からの給付のみで修学可能	12.7	19.5 (6.8)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	19.3	24.4 (5.1)
		アルバイト非従事者	68.1	56.1 (▲12.0)

※ ( )は、直前の調査との増減である。

※ 大学院の「アルバイト従事者」には、TA(ティーチング・アシスタント)、RA(リサーチ・アシスタント)を含む。

第7図 アルバイト従事者の経済状況

(単位：%)



(注1)各図の数値は、学生生活調査結果集計表Ⅰ・大学・短期大学のH-1表、H-2表、同Ⅱ・大学院のH-1表、H-2表、H-3表を基に、全学生のうち、アルバイト従事者を100とした割合。

(注2)大学院は、TA(ティーチングアシスタント)とRA(リサーチアシスタント)従事者を含む。

## (2) アルバイト従事時期別学生数の割合 (N表、第8図)

アルバイト従事時期別学生数の割合について、学校区分別に見てみると、平均では、大学院の「経常的」の割合が60%~70%台であるのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)の「経常的」の割合は80%台となっており、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)のほうが「経常的」に従事する割合が高くなっている。さらに、「経常的」の内訳を見ると、大学院の授業期間中では、「週1、2日」の割合のほうが高い傾向であるのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)では、授業期間中・長期休暇中とも「週3日以上」の割合のほうが高い傾向となっており、長期休暇中では特にその割合が高い。また、「週3日以上」の割合をさらに設置者別に見てみると、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)では、私立の割合が最も高くなっており、国立(短期大学(昼間部)では公立)と比較して7.4ポイント~13.6ポイント高くなっている。なお、大学(昼間部)について前回調査と比較したところ、これらの傾向は前回調査より変わっていない。

授業期間中と長期休暇中の割合について比較したところ、「臨時的(不定期)」については、すべての学校区分において長期休暇中のほうが割合が高くなっており、平均では、授業期間中よりも2.0ポイント~4.8ポイント高くなっている。

N表 アルバイト従事時期別学生数の割合

[単位: %]

区分	授業期間中					長期休暇中					
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	
大学(昼間部)											
国立	15.3	44.1	40.6	84.7	100.0	20.9	24.8	54.3	79.1	100.0	
公立	14.5	36.9	48.6	85.5	100.0	17.6	16.6	65.8	82.4	100.0	
私立	14.1	36.6	49.3	85.9	100.0	17.4	14.7	67.9	82.6	100.0	
平均	14.3	37.9	47.8	85.7	100.0	18.0	16.5	65.5	82.0	100.0	
短期大学(昼間部)											
公立	15.3	39.8	44.9	84.7	100.0	21.4	17.3	61.3	78.6	100.0	
私立	13.7	34.0	52.3	86.3	100.0	16.2	13.1	70.8	83.9	100.0	
平均	13.8	34.3	52.0	86.3	100.0	16.4	13.3	70.3	83.6	100.0	
大 学	修士課程										
	国立	26.8	51.5	21.7	73.2	100.0	27.6	39.2	33.2	72.4	100.0
	公立	24.7	48.1	27.1	75.2	100.0	26.3	35.6	38.1	73.7	100.0
	私立	26.8	50.2	23.0	73.2	100.0	31.2	32.0	36.8	68.8	100.0
	平均	26.7	50.9	22.5	73.4	100.0	28.7	36.7	34.6	71.3	100.0
	博士課程										
	国立	25.4	48.3	26.3	74.6	100.0	29.4	41.6	29.0	70.6	100.0
	公立	22.0	52.6	25.3	77.9	100.0	25.1	46.1	28.8	74.9	100.0
私立	22.9	51.3	25.8	77.1	100.0	28.5	40.7	30.9	71.6	100.0	
平均	24.4	49.5	26.1	75.6	100.0	28.8	41.6	29.6	71.2	100.0	
院	専門職学位課程										
	国立	30.7	45.5	23.8	69.3	100.0	34.5	29.9	35.6	65.5	100.0
	公立	43.8	21.5	34.7	56.2	100.0	47.3	4.6	48.1	52.7	100.0
	私立	30.5	44.4	25.1	69.5	100.0	36.4	28.7	34.9	63.6	100.0
平均	31.1	44.1	24.8	68.9	100.0	35.9	28.5	35.6	64.1	100.0	

(注) 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

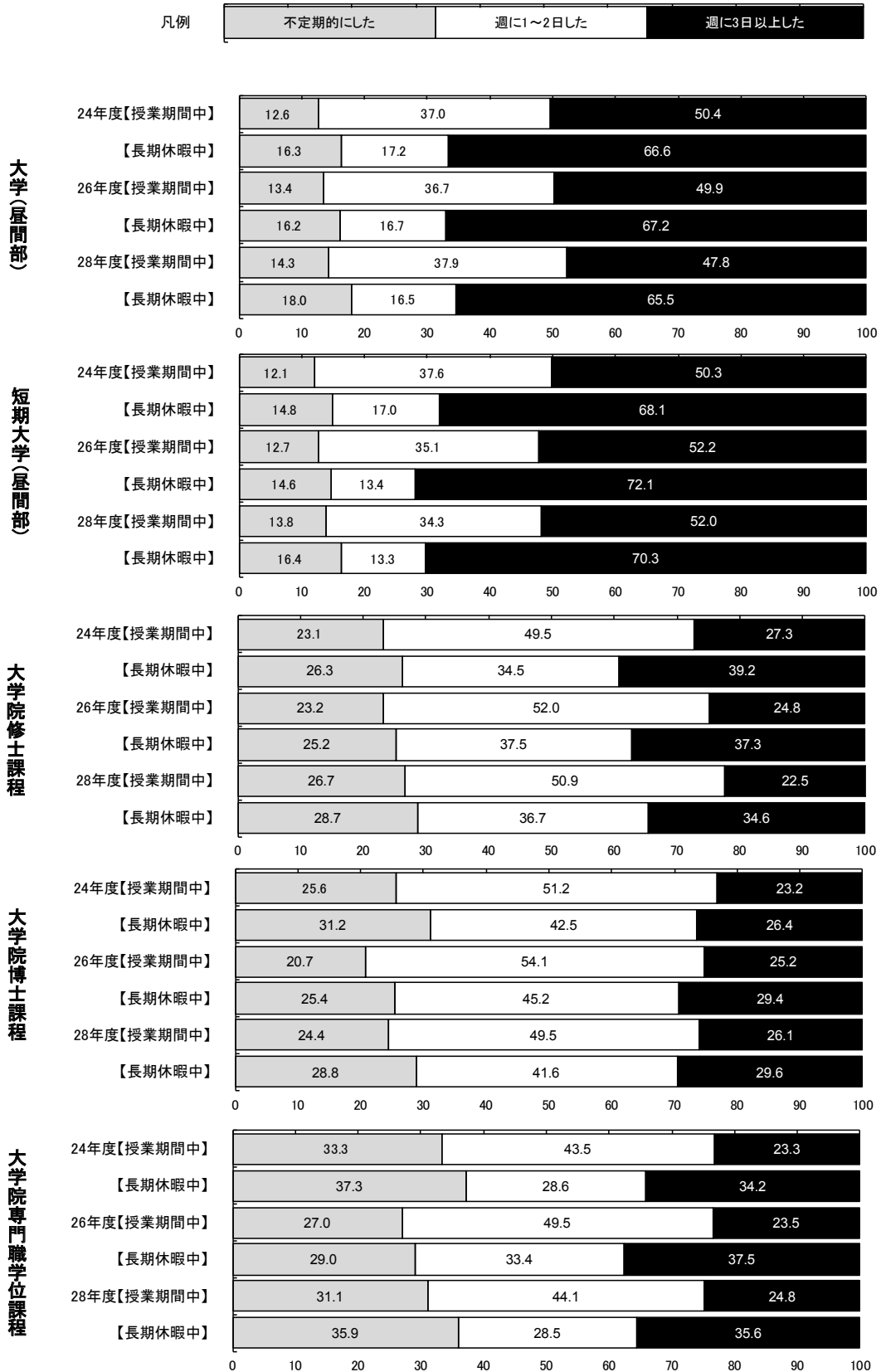
【参考】平成26年度 大学(昼間部)

[単位: %]

区分	授業期間中					長期休暇中				
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計
大学(昼間部)										
国立	14.8	42.6	42.6	85.2	100.0	19.5	22.9	57.6	80.5	100.0
公立	14.5	35.9	49.6	85.5	100.0	16.1	16.9	67.1	84.0	100.0
私立	13.0	35.4	51.6	87.0	100.0	15.4	15.3	69.3	84.6	100.0
平均	13.4	36.7	49.9	86.6	100.0	16.2	16.7	67.2	83.9	100.0

第8図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移

[単位: %]



※ 大学院は、T A (ティーチングアシスタント) 及び R A (リサーチアシスタント) 従事者を含まない。

### (3) アルバイト従事職種別学生数の割合 (O表)

アルバイト従事職種は、調査時前の1年間においてアルバイトに従事した者について、授業期間中・長期休暇中別に関わらず従事した主な職種一つについて設問したものである。

アルバイト従事職種別の学生数の割合について、学校区分別に見てみると、短期大学(昼間部)では、軽労働が授業期間中87.4%・長期休暇中87.0%(以下この項目において%のみ記載とする。)と短期大学(昼間部)全体の9割近くを占めているのに対し、大学院では軽労働は半数以下、特に博士課程では9.6%・10.9%となっている。特殊技能その他では、博士課程で60.9%・60.3%と博士課程全体の6割を占めているのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)では概ね10%未満となっている。また、家庭教師については、大学院が18.8%~26.6%となっているのに対し、短期大学(昼間部)では1.6%・1.8%のみとなっている。

次に、大学(昼間部)について設置者別に見てみると、家庭教師は、国立が27.9%・27.8%であるのに対し、公立15.2%・14.9%、私立9.1%・8.8%と国立より低い割合となっている。一方で、軽労働では、国立が59.2%・59.3%であるのに対し、公立74.2%・74.1%、私立76.1%・76.0%と国立より高い割合となっている。なお、平均について前回調査と比較したところ、大きな変化は見られなかった。

O表 アルバイト従事職種別学生数の割合

[単位: %]

区分	家庭教師	事務	職種					軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業	特殊技能 その他		計		
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他							
大学 (昼間部)	国立	授業期間中	27.9	3.9	16.6	36.3	6.3	59.2	1.4	1.4	6.2	7.6	100.0	
		長期休暇中	27.8	3.8	16.6	35.8	6.9	59.3	1.5	1.5	6.1	7.6	100.0	
	公立	授業期間中	15.2	3.1	24.3	43.3	6.6	74.2	0.8	0.9	5.8	6.7	100.0	
		長期休暇中	14.9	3.2	24.5	42.7	6.9	74.1	1.1	0.9	6.0	6.9	100.0	
	私立	授業期間中	9.1	3.1	26.7	42.5	6.9	76.1	1.7	1.4	8.5	9.9	100.0	
		長期休暇中	8.8	3.0	26.5	41.9	7.6	76.0	2.0	1.4	8.8	10.2	100.0	
	平均	授業期間中	12.7	3.3	24.9	41.5	6.8	73.2	1.6	1.4	8.0	9.4	100.0	
		長期休暇中	12.4	3.2	24.7	40.9	7.4	73.0	1.8	1.4	8.2	9.6	100.0	
	短期大学(昼間部)		授業期間中	1.6	1.6	28.3	54.3	4.8	87.4	0.7	0.7	8.0	8.7	100.0
			長期休暇中	1.8	1.6	27.7	54.1	5.2	87.0	0.6	0.8	8.4	9.2	100.0
大 学 院	修士課程		授業期間中	24.5	8.2	14.5	23.4	8.1	46.0	1.5	5.2	14.6	19.8	100.0
			長期休暇中	23.7	8.1	15.0	24.2	8.8	48.0	1.7	5.1	13.4	18.5	100.0
	博士課程		授業期間中	19.6	9.0	3.5	3.1	3.0	9.6	0.8	19.9	41.0	60.9	100.0
			長期休暇中	18.8	8.9	3.8	3.7	3.4	10.9	1.1	21.5	38.8	60.3	100.0
	専門職学位課程		授業期間中	26.6	15.3	9.3	17.0	6.5	32.8	1.0	4.6	19.6	24.2	100.0
			長期休暇中	25.7	16.0	9.6	16.9	7.4	33.9	1.4	4.1	18.9	23.0	100.0

(注1) 家庭教師には、塾講師などを含む。

(注2) 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

【参考】平成26年度調査結果

[単位: %]

区分	家庭教師	事務	職種					軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業	特殊技能 その他		計	
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他						
大学(昼間部)		授業期間中	12.3	3.4	25.5	41.3	6.8	73.6	1.6	1.3	7.8	9.1	100.0
		長期休暇中	12.1	3.3	25.6	40.7	7.3	73.6	1.9	1.3	7.8	9.1	100.0

## 5. 奨学金の受給希望及び受給状況

### (1) 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体、学校からの奨学金受給者をいう）の割合について、学校区分別（平均）で比較したところ、奨学金「受給者」は、博士課程で56.9%と最も高くなっており、それ以外の区分では、専門職学位課程を除いて概ね50%前後となっている。

「受給者」の割合について、さらに設置者別に比較したところ、大学（昼間部）では公立が最も高く54.5%となっており、短期大学（昼間部）は公立が最も高く61.7%、修士課程は公立が最も高く56.2%、博士課程は国立が最も高く60.8%、専門職学位課程では私立が最も高く46.6%となっている。

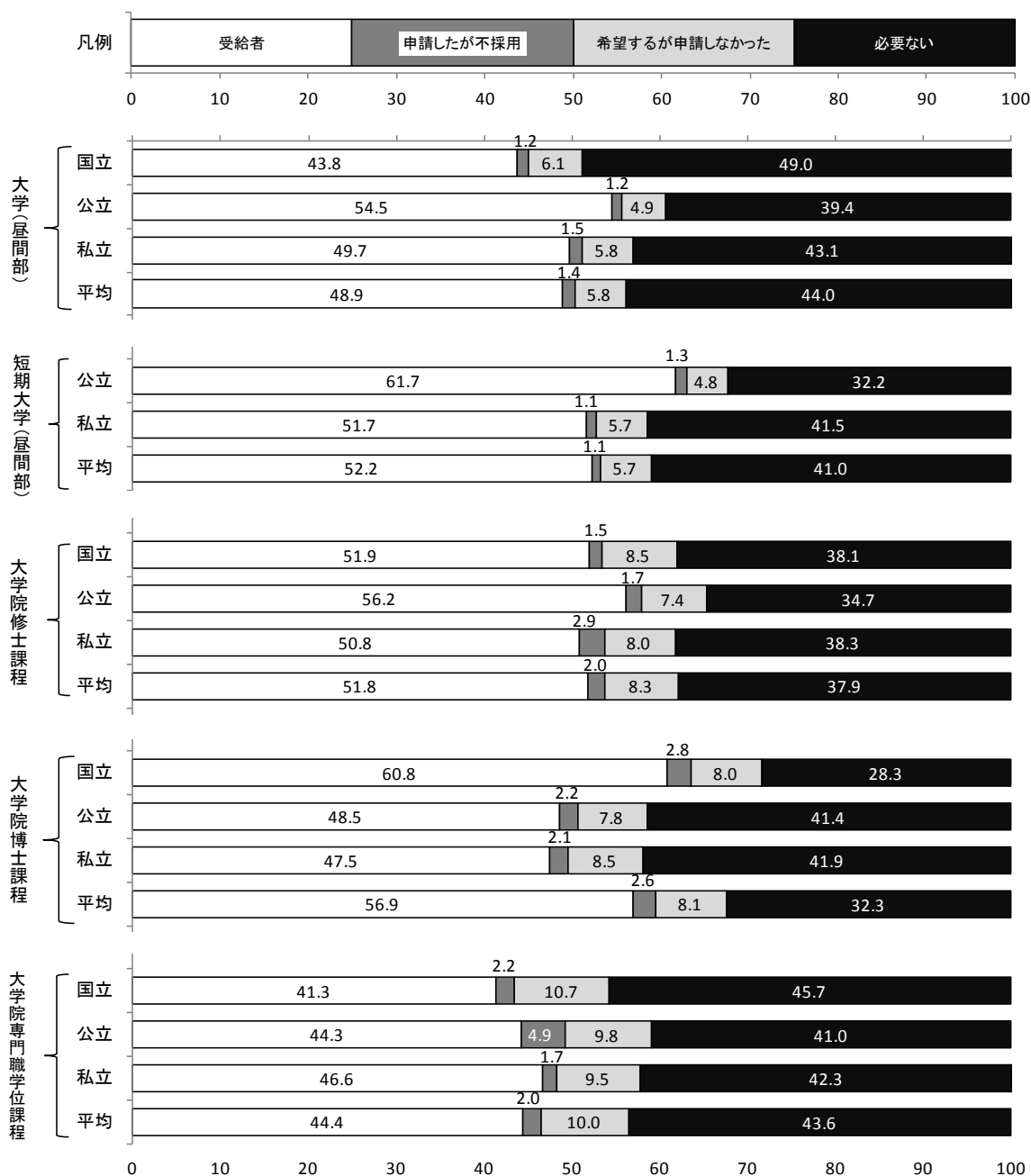
次に、「申請したが不採用」では、大学（昼間部）1.4%、短期大学（昼間部）1.1%であるのに対して、大学院では2.0~2.6%と、やや割合が高くなっている。「希望するが申請しなかった」についても、大学（昼間部）5.8%、短期大学（昼間部）5.7%であるのに対して、修士課程8.3%、博士課程8.1%と割合が高く、専門職学位課程では10.0%となっている。

「受給者」「申請したが不採用」「希望するが申請しなかった」の合計を奨学金受給希望者とする、その割合は、大学（昼間部）56.1%、短期大学（昼間部）59.0%、修士課程62.1%、博士課程67.6%、専門職学位課程56.4%となっており、いずれの学校区分も50%~60%台の割合となっている。

なお、「受給者」「申請したが不採用」の合計を奨学金申請者として、奨学金申請者を分母とした「受給者」の割合を見てみると、大学（昼間部）97.2%、短期大学（昼間部）97.9%、修士課程96.3%、博士課程95.6%、専門職学位課程95.7%となっており、いずれの学校区分も、奨学金申請者のうち95%以上が「受給者」となっている。

第9図 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況

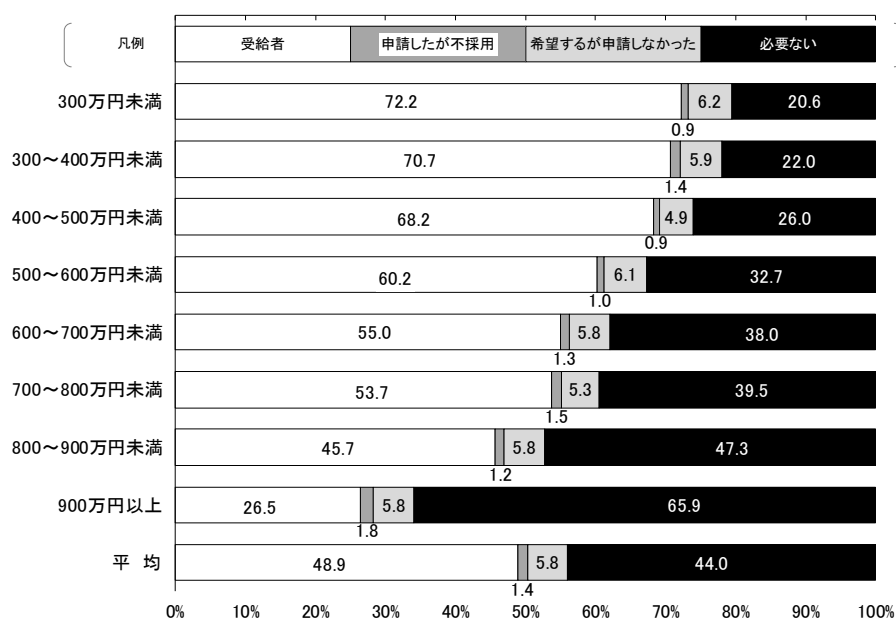
[単位：％]



(2) 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況 (第10図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて「受給者」の割合は低くなっている。なお、「申請したが不採用」「希望するが申請をしなかった」については、家庭の年間収入による大きな差は見られない。

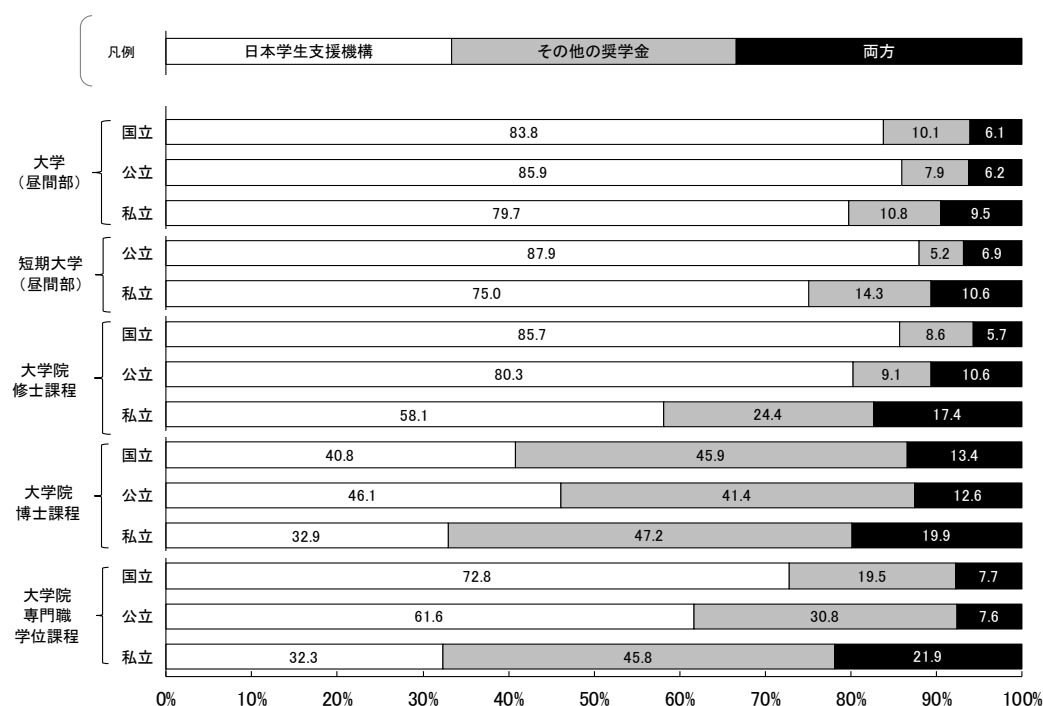
第 10 図 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況(大学(昼間部))



(3) 奨学金の種類別・設置者別受給状況 (第 11 図)

奨学金の種類別受給状況を設置者別に見てみると、すべての学校区分において、その他の奨学金受給者(「その他の奨学金」「両方」の合計)の割合は、私立が最も高くなっている。また、その割合は大学(昼間部)、短期大学(昼間部)より大学院のほうが高くなっており、それぞれ修士課程私立 41.8%、博士課程私立 67.1%、専門職学位課程私立 67.7%となっている。

第 11 図 奨学金の種類別・設置者別受給状況





## 6. 居住形態別・地域別通学時間（第12図、P表）

居住形態別の通学時間（片道の通学時間）について、「自宅」からの通学者では、すべての学校区分において「31～60分」と回答した割合が最も高く、次いで「61～90分」と回答した割合が高くなっている。「31～60分」「61～90分」の割合を合計すると、博士課程を除いて、いずれも半数を超えており、大学（昼間部）59.9%、短期大学（昼間部）62.6%、修士課程58.3%、専門職学位課程62.1%となっている。

一方で、「学寮」からの通学者では、すべての学校区分において「0～10分」と回答した割合が最も高く、いずれも半数を超えており、その割合が最も高い短期大学（昼間部）では75.5%となっている。

「アパート等」からの通学者については、「0～10分」「11～20分」の割合を合計すると、すべての学校区分において、いずれも半数を超えており、特に、大学（昼間部）は79.2%、短期大学（昼間部）は72.8%、修士課程は78.4%と70%以上となっている。

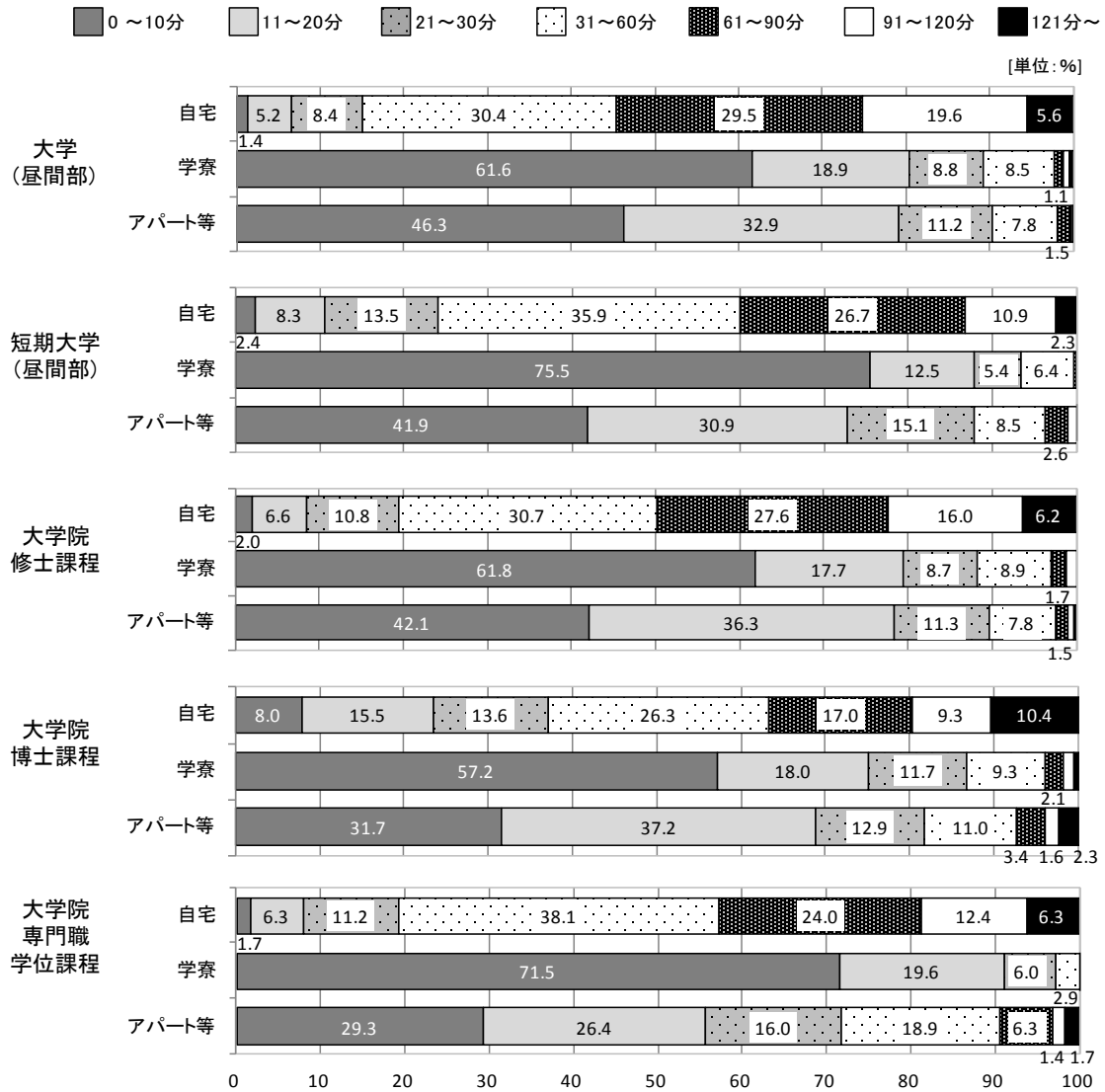
次に、大学（昼間部）について地域別に見てみると、「自宅」からの通学者では、「31～90分」と回答した割合（「31～60分」「61～90分」の合計）では大きな差は見られないが、「0～30分」と回答した割合（「0～10分」「11～20分」「21～30分」の合計）で見ると、東京圏8.6%、京阪神12.8%、その他22.7%となっており、東京圏よりその他のほうが14.1ポイント高くなっている。

「学寮」からの通学者では、「0～10分」と回答した割合は、東京圏47.6%、京阪神56.3%、その他72.2%となっており、東京圏よりその他のほうが24.6ポイント高くなっている。

「アパート等」からの通学者については、「0～10分」「11～20分」の割合を合計すると、東京圏62.1%、京阪神79.8%、その他87.3%となっており、東京圏よりその他のほうが25.2ポイント高くなっている。

なお、大学（昼間部）の全国平均について前回調査と比較したところ、大きな変化は見られなかった。

第 12 図 居住形態別片道通学時間



P表 居住形態別・地域別片道通学時間(大学(昼間部))

[単位: %]

区分			0~10分	11~20分	21~30分	31~60分	61~90分	91~120分	121分以上	計
平成28年度	自宅	東京圏	0.8	2.7	5.1	30.5	32.8	22.5	5.7	100.0
		京阪神	1.2	4.3	7.3	26.8	31.8	22.0	6.7	100.0
		その他	2.2	8.2	12.3	31.9	25.0	15.4	4.9	100.0
		全国	1.4	5.2	8.4	30.4	29.5	19.6	5.6	100.0
	学寮	東京圏	47.6	14.5	13.9	19.0	2.7	1.9	0.5	100.0
		京阪神	56.3	26.9	8.5	7.0	-	-	1.3	100.0
		その他	72.2	19.9	5.4	1.9	0.2	-	0.3	100.0
		全国	61.6	18.9	8.8	8.5	1.1	0.7	0.5	100.0
	アパート等	東京圏	29.9	32.2	17.8	16.1	3.1	0.7	0.2	100.0
		京阪神	40.8	39.0	10.3	7.2	2.3	0.3	0.2	100.0
その他		55.3	32.0	8.2	3.9	0.5	0.1	0.0	100.0	
全国		46.3	32.9	11.2	7.8	1.5	0.3	0.1	100.0	
(参考)平成26年度	自宅	全国	1.5	5.0	9.0	29.8	29.1	19.5	6.0	100.0
	学寮	全国	58.3	20.2	10.3	8.6	1.5	0.6	0.4	100.0
	アパート等	全国	45.7	32.8	10.8	8.2	1.5	0.7	0.2	100.0

## 7. 週間平均生活時間（Q表）

週間平均生活時間は、調査時点（平成 28 年 11 月）における「最近 1 週間（7 日間）の生活時間」について設問したものである。なお、大学及び短期大学と大学院では、「アルバイト・定職」「就職活動」「娯楽・交友」の選択肢を除いて、選択肢の内容が異なるため留意する必要がある。

### ①大学（昼間部）・短期大学（昼間部）

「大学の授業の予習・復習など」については、大学（昼間部）及び短期大学（昼間部）とも「1～5 時間」と回答した割合が半数を超えている。また、「卒業論文・卒業研究」「大学の授業以外の学習」「部活動・サークル活動」「就職活動」について、「0 時間」と回答した割合が半数近く、または半数を超える状況となっている。

このうち、「卒業論文・卒業研究」「就職活動」については、いずれも「0 時間」と回答した割合が 70%を越えているが、これは学年による違いが出るため、3 年次及び 4 年次のみ（大学（昼間部））、1 年次及び 2 年次のみ（短期大学（昼間部））の状況について Q 表に併せて掲載した。「卒業論文・卒業研究」について見てみると、大学（昼間部）4 年次では 19.8%と低く、短期大学（昼間部）では 1 年次 94.1%と比較して 2 年次 56.6%と低くなっている。次に、「就職活動」について見てみると、調査時点が 11 月であるため大学（昼間部）4 年次では学年全体平均と大きく変わらないが、3 年次では 70.0%と低く、短期大学（昼間部）では 1 年次 91.5%と比較して 2 年次 66.4%と低くなっている。

なお、前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「アルバイト・定職」を「0 時間」と回答した割合は 4.1 ポイント減少している一方で、1～20 時間までで回答した割合を合わせると、前回より 5.0 ポイント増加している。他の区分については、概ねどの区分も大きな変化は見られなかった。

### ②大学院

「大学内での授業、研究、実習、実験」については、修士課程及び博士課程では「31 時間以上」と回答した割合が最も高くなっており、修士課程 49.1%、博士課程 44.7%となっている。なお、「大学外での学習、研究」については、「0 時間」と回答した割合が修士課程 28.0%、博士課程 29.4%となっているが、専門職学位課程では 9.5%と低くなっている。

「アルバイト・定職」については、「0 時間」と回答した割合が、修士課程 45.8%、博士課程 42.6%、専門職学位課程 47.7%と高くなっている。ただし、一方で、「31 時間以上」と回答した割合は、博士課程 22.2%、専門職学位課程 25.7%と、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程よりも高くなっている。

Q表 週間平均生活時間

[単位: %]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	6.1	14.5	10.7	16.2	22.2	16.8	6.6	6.2	0.7	100.0
	大学の授業の予習・復習など	20.8	51.9	15.9	5.7	2.1	1.2	0.6	1.1	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	72.7	10.6	4.8	2.4	1.9	1.6	1.2	4.3	0.6	100.0
	うち3年のみ	74.2	19.1	3.7	1.1	0.4	0.2	0.3	0.4	0.5	100.0
	うち4年のみ	19.8	21.4	15.1	8.7	7.3	6.1	4.5	16.6	0.4	100.0
	大学の授業以外の学習	45.4	35.6	9.1	3.4	1.8	1.1	0.6	2.1	0.9	100.0
	部活動・サークル活動	48.4	25.6	11.8	5.7	3.5	1.7	1.0	1.6	0.6	100.0
	アルバイト・定職	28.2	10.2	16.4	18.5	14.9	6.4	2.5	2.5	0.6	100.0
	就職活動	88.0	8.3	1.8	0.8	0.3	0.1	0.0	0.1	0.6	100.0
	うち3年のみ	70.0	23.0	4.3	1.3	0.4	0.2	0.0	0.2	0.6	100.0
	うち4年のみ	85.8	8.4	2.7	1.5	0.7	0.2	0.1	0.3	0.4	100.0
娯楽・交友	3.5	29.4	29.0	16.5	9.1	4.1	1.8	5.5	1.0	100.0	
短期大学 (昼間部)	大学の授業	0.4	4.7	14.4	14.7	19.6	17.9	14.8	12.0	1.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	19.3	60.9	12.7	3.5	1.3	0.8	0.3	0.2	0.9	100.0
	卒業論文・卒業研究	74.7	17.3	4.1	1.3	0.7	0.3	0.1	0.3	1.1	100.0
	うち1年のみ	94.1	3.3	0.8	0.4	0.1	0.0	-	0.0	1.3	100.0
	うち2年のみ	56.6	30.3	7.3	2.3	1.3	0.4	0.2	0.6	1.0	100.0
	大学の授業以外の学習	56.3	33.6	5.7	1.5	0.9	0.4	0.2	0.3	1.2	100.0
	部活動・サークル活動	73.4	19.2	3.8	1.2	0.7	0.5	0.1	0.3	0.8	100.0
	アルバイト・定職	28.6	9.9	15.2	18.3	15.0	7.5	2.2	2.6	0.6	100.0
	就職活動	78.6	16.4	2.3	1.1	0.2	0.2	0.1	0.1	1.0	100.0
	うち1年のみ	91.5	6.8	0.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.9	100.0
	うち2年のみ	66.4	25.1	3.9	2.3	0.4	0.4	0.2	0.2	1.3	100.0
娯楽・交友	5.1	31.9	28.4	14.9	7.7	4.5	1.7	4.7	1.2	100.0	

(参考) 平成26年度調査

[単位: %]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	6.1	14.2	10.5	15.7	22.1	17.9	7.1	5.8	0.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	21.1	51.9	15.8	5.7	2.2	1.1	0.5	0.9	0.7	100.0
	卒業論文・卒業研究	72.5	9.8	4.6	2.7	2.1	1.5	1.2	4.8	0.7	100.0
	大学の授業以外の学習	44.7	35.7	9.2	3.7	1.9	1.2	0.7	2.0	1.0	100.0
	部活動・サークル活動	47.5	26.4	12.2	6.0	2.9	1.8	1.0	1.4	0.7	100.0
	アルバイト・定職	32.3	8.8	14.7	17.6	13.9	6.6	2.6	2.7	0.7	100.0
	就職活動	87.6	8.3	1.8	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.8	100.0
	娯楽・交友	3.3	28.8	29.5	16.7	8.4	4.1	2.1	6.2	0.8	100.0

[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学院修士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	1.5	7.6	10.7	8.5	7.0	7.1	7.9	49.1	0.5	100.0
	大学外での学習、研究	28.0	28.7	16.4	8.4	5.2	3.4	2.3	5.8	1.6	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	65.5	23.9	6.0	1.4	0.4	0.0	0.0	0.1	2.7	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	93.3	1.6	0.8	0.3	0.3	0.1	0.0	0.1	3.3	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	45.8	11.0	14.3	10.4	6.0	2.7	1.1	6.7	2.0	100.0
	就職活動	79.1	13.1	3.0	0.9	0.4	0.2	0.1	0.3	2.8	100.0
	娯楽・交友	4.5	27.9	26.5	16.1	9.3	4.6	2.4	5.9	2.8	100.0
大学院博士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	9.1	14.8	9.7	5.9	5.4	4.3	5.1	44.7	1.0	100.0
	大学外での学習、研究	29.4	20.9	14.8	8.6	5.7	3.9	2.9	11.1	2.8	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	72.8	14.9	5.2	1.4	0.6	0.2	0.1	0.3	4.5	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	74.3	6.9	5.8	3.1	2.3	0.7	0.4	1.4	5.1	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	42.6	5.2	9.3	6.4	5.9	3.6	2.2	22.2	2.6	100.0
	就職活動	88.2	4.9	1.0	0.4	0.3	0.1	0.1	0.3	4.8	100.0
	娯楽・交友	9.8	31.7	26.9	13.2	6.3	3.2	1.1	3.4	4.4	100.0
大学院専門職学位課程	大学内での授業、研究、実習、実験	2.0	14.8	20.2	22.4	12.5	5.1	4.1	18.3	0.7	100.0
	大学外での学習、研究	9.5	17.5	20.0	14.5	9.5	5.2	4.5	16.7	2.6	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	86.4	3.9	0.9	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	8.1	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	89.7	0.7	0.6	0.2	0.0	0.1	-	0.1	8.6	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	47.7	6.5	5.2	3.6	3.6	1.6	1.1	25.7	5.2	100.0
	就職活動	85.1	4.5	1.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.4	8.2	100.0
	娯楽・交友	8.2	37.0	26.2	11.3	5.5	2.1	1.4	2.4	6.0	100.0

## 8. 大学の学生支援体制への満足度(R表)

大学の学生支援体制の利用の有無、及び満足度の状況については、R表のとおりである。まず、「利用したことがない」と回答した割合を見たところ、「図書館・自習室などの学習支援施設」は、すべての学校区分で3.4～12.9%と低いが、「図書館・自習室などの学習支援施設」以外では、短期大学（昼間部）の「キャリア・センターなどでの就職・進路への支援」を除いて、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用したことがない」の中では、いずれも「利用したことがない」と回答した割合が最も高くなっている。

「利用したことがない」と回答した割合を学校区分別に比較してみると、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」では、学校区分に関わらず概ね40%前後となっているが、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」以外では、いずれも博士課程の割合が最も高くなっている。

次に、「利用したことがある」と回答した者のうち、「満足」「やや満足」と回答した割合を学校区分別に比較してみると、いずれも短期大学（昼間部）の割合が最も高く、博士課程の割合が最も低くなっている。

R表 大学の学生支援体制への満足度

区分		利用したことがある					利用したことがない	無回答
		満足	やや満足	やや不満	不満	計		
図書館・自習室 などの学習支援施設	大学 (昼間部)	(83.3)		(16.7)		(100.0)		
		37.7	42.4	12.8	3.3	96.2	3.8	0.0
	短期大学 (昼間部)	(87.9)		(12.1)		(100.0)		
		42.9	38.4	8.9	2.3	92.5	7.4	0.1
	大学院 修士課程	(80.8)		(19.2)		(100.0)		
		34.5	42.3	14.1	4.1	95.0	4.9	0.1
キャリア・センター などでの就職・進路 への支援	大学院 博士課程	(78.7)		(21.3)		(100.0)		
		32.4	36.0	13.6	4.9	86.9	12.9	0.2
	大学院 専門職学位課程	(79.2)		(20.8)		(100.0)		
		41.0	35.5	15.6	4.5	96.6	3.4	0.0
	大学 (昼間部)	(79.0)		(21.0)		(100.0)		
		14.9	26.8	8.5	2.6	52.8	47.0	0.1
学習・生活面での カウンセリング	短期大学 (昼間部)	(88.3)		(11.7)		(100.0)		
		31.3	31.4	6.4	1.9	71.0	28.8	0.2
	大学院 修士課程	(72.3)		(27.7)		(100.0)		
		12.0	25.9	10.2	4.3	52.4	47.4	0.2
	大学院 博士課程	(64.7)		(35.3)		(100.0)		
		5.8	12.5	6.2	3.8	28.3	71.4	0.2
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 専門職学位課程	(68.1)		(31.9)		(100.0)		
		7.7	13.4	6.9	3.0	31.0	68.7	0.3
	大学 (昼間部)	(74.5)		(25.5)		(100.0)		
		9.3	21.1	8.0	2.4	40.8	59.1	0.1
	短期大学 (昼間部)	(84.6)		(15.4)		(100.0)		
		17.4	28.2	6.8	1.5	53.9	45.9	0.2
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 修士課程	(72.4)		(27.6)		(100.0)		
		8.6	16.9	6.7	3.0	35.2	64.6	0.2
	大学院 博士課程	(63.8)		(36.2)		(100.0)		
		6.8	11.7	6.5	4.0	29.0	70.7	0.2
	大学院 専門職学位課程	(76.0)		(24.0)		(100.0)		
		13.8	19.1	7.4	3.0	43.3	56.6	0.2
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学 (昼間部)	(73.8)		(26.2)		(100.0)		
		14.3	28.6	11.9	3.3	58.1	41.9	0.1
	短期大学 (昼間部)	(85.0)		(15.0)		(100.0)		
		21.4	30.8	7.5	1.7	61.4	38.4	0.2
	大学院 修士課程	(67.1)		(32.9)		(100.0)		
		13.8	29.1	15.9	5.1	63.9	35.8	0.2
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 博士課程	(64.4)		(35.6)		(100.0)		
		12.9	25.1	14.5	6.5	59.0	40.8	0.3
	大学院 専門職学位課程	(73.6)		(26.4)		(100.0)		
		19.9	23.9	11.2	4.5	59.5	40.3	0.2

## 9. 学生の不安や悩み(S表)

学生の不安や悩みについて、「大いにある」「少しある」と回答した割合を見たところ、すべての学校区分において「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」が最も高い割合を示している。一方、「大いにある」「少しある」と回答した割合が最も低かったのは、大学（昼間部）・短期大学（昼間部）では「経済的に勉強を続けることが難しい」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、大学（昼間部）53.3ポイント、短期大学（昼間部）44.6ポイントとなっており、大学院では「学内の友人関係の悩みがある」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、修士課程 36.0ポイント、博士課程 37.0ポイント、専門職学位課程 31.5ポイントとなっている。

次に、それぞれを学校区分別に比較したところ、「授業の内容についていけない」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）32.9%、短期大学（昼間部）30.3%に比べて、修士課程は 19.9%、博士課程は 13.7%と低くなっている。また、博士課程の「全くない」と回答した割合は半数を超えている。

「卒業後にやりたいことがみつからない」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）41.6%に比べて、博士課程は 17.4%、専門職学位課程は 13.8%と低くなっている。また、博士課程及び専門職学位課程の「全くない」と回答した割合は半数を超えている。

「希望の就職先や進学先に行けるか不安だ」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）69.3%、短期大学（昼間部）59.8%に比べて、修士課程は 47.7%、博士課程は 46.7%、専門職学位課程は 43.7%といずれも 40%台となっている。ただし、「大いにある」と回答した割合は、すべての学校区分において、20.9%～32.1%と高い割合となっている。

「経済的に勉強を続けることが難しい」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、博士課程では 29.1%と、他の学校区分より高くなっている。「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において半数近い状況となっている。

「学内の友人関係の悩みがある」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）16.6%、短期大学（昼間部）18.5%に比べて、修士課程は 11.7%、博士課程は 9.7%、専門職学位課程は 12.2%とやや低くなっている。また、「あまりない」「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において 80%を超えており、「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において半数近く、または半数を超えている。

なお、前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「経済的に勉強を続けることが難しい」を「全くない」と回答した割合は 2.2ポイント増加しているが、それ以外は、概ねどの区分も大きな変化は見られなかった。

S表 学生の不安や悩み

[単位: %]

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていけない	大学(昼間部)	4.3	28.6	41.0	26.0	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	3.0	27.3	46.8	22.9	0.1	100.0
	大学院修士課程	2.6	17.3	37.3	42.5	0.2	100.0
	大学院博士課程	2.4	11.3	28.6	57.2	0.5	100.0
	大学院専門職学位課程	4.1	25.5	41.2	29.1	0.3	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	大学(昼間部)	13.1	28.5	28.4	30.0	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	8.1	19.2	31.2	41.4	0.1	100.0
	大学院修士課程	6.4	19.3	30.0	44.1	0.2	100.0
	大学院博士課程	3.9	13.5	24.1	58.2	0.4	100.0
	大学院専門職学位課程	3.0	10.8	26.2	59.8	0.2	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	大学(昼間部)	32.1	37.2	14.5	16.1	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	24.2	35.6	17.2	22.8	0.2	100.0
	大学院修士課程	21.7	26.0	15.5	36.6	0.3	100.0
	大学院博士課程	23.5	23.2	14.7	38.2	0.4	100.0
	大学院専門職学位課程	20.9	22.8	14.3	41.6	0.4	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	大学(昼間部)	2.5	13.5	38.9	45.0	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	2.8	12.4	38.3	46.4	0.1	100.0
	大学院修士課程	4.3	15.9	31.0	48.6	0.3	100.0
	大学院博士課程	7.7	21.4	27.9	42.7	0.3	100.0
	大学院専門職学位課程	4.8	17.9	29.3	47.7	0.3	100.0
学内の友人関係の悩みがある	大学(昼間部)	3.4	13.2	36.2	47.1	0.0	100.0
	短期大学(昼間部)	2.9	15.6	34.3	47.1	0.1	100.0
	大学院修士課程	2.1	9.6	29.9	58.2	0.3	100.0
	大学院博士課程	2.0	7.7	24.9	65.1	0.4	100.0
	大学院専門職学位課程	2.3	9.9	27.8	59.8	0.1	100.0

(参考)平成26年度調査

[単位: %]

区 分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
大学 (昼間部)	授業の内容についていけない	4.6	30.6	39.8	24.9	0.1	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	12.6	28.2	29.7	29.4	0.1	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	33.7	36.2	14.6	15.4	0.1	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	2.6	14.7	39.7	42.8	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	3.5	14.4	36.2	45.8	0.1	100.0



④ 表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自 宅		下宿、アパート、その他		全居住形態平均		
	学 費	生活費	学 費	生活費	学 費	生活費	
大 学	国立	699,600 円 (△1.6%)	1,090,100 円 (△0.8%)	623,200 円 (△0.1%)	1,120,300 円 (2.7%)	642,500 円 (△0.8%)	865,200 円 (2.1%)
	公立	711,000 (△1.9%)	1,101,100 (0.2%)	629,000 (0.4%)	1,045,600 (2.2%)	661,300 (△0.8%)	770,100 (1.8%)
	私立	1,342,800 (△1.9%)	1,759,400 (△0.6%)	1,403,200 (2.1%)	1,089,300 (7.2%)	1,360,900 (△0.1%)	645,000 (4.3%)
	平均	1,254,400 (△1.9%)	1,667,200 (△0.6%)	1,105,900 (1.4%)	1,095,100 (5.4%)	1,193,400 (△0.2%)	690,800 (3.6%)
大 学 院	国立	...	...	...	...	...	...
	公立	563,700 (1.2%)	876,100 (1.3%)	483,600 (△1.2%)	862,600 (8.2%)	519,200 (0.3%)	589,100 (5.8%)
	私立	1,139,700 (△2.0%)	1,501,100 (△0.6%)	1,046,900 (△2.1%)	945,300 (4.5%)	1,120,700 (△1.4%)	493,200 (4.4%)
	平均	1,121,100 (△2.0%)	1,481,000 (△0.6%)	975,000 (△1.9%)	934,900 (5.0%)	1,089,300 (△1.3%)	498,000 (4.5%)
専 門 職 業 学 位 課 程	国立	675,800 (△1.7%)	1,198,600 (△0.3%)	577,300 (△1.3%)	1,289,300 (1.1%)	604,900 (△1.0%)	1,040,600 (0.7%)
	公立	726,800 (1.8%)	1,374,500 (4.8%)	616,500 (△1.0%)	1,273,600 (4.5%)	660,500 (△0.1%)	988,000 (4.3%)
	私立	1,152,600 (0.8%)	1,726,000 (1.9%)	1,052,400 (△2.7%)	1,348,900 (3.4%)	1,110,200 (△0.4%)	897,500 (4.8%)
	平均	903,300 (△0.6%)	1,457,900 (0.8%)	689,600 (△1.5%)	1,301,400 (1.8%)	772,500 (△1.0%)	991,000 (2.2%)
博 士 課 程	国立	732,000 (△1.5%)	1,888,800 (11.1%)	559,500 (△5.9%)	1,763,800 (2.6%)	604,000 (△5.1%)	1,569,200 (7.0%)
	公立	777,600 (0.0%)	2,123,900 (13.7%)	639,500 (△9.7%)	2,026,200 (12.4%)	682,700 (△7.2%)	1,753,800 (17.6%)
	私立	953,300 (△1.8%)	2,020,000 (1.7%)	860,300 (0.4%)	1,965,800 (9.0%)	902,000 (△0.8%)	1,525,600 (7.8%)
	平均	813,900 (△0.8%)	1,949,100 (8.0%)	623,300 (△4.2%)	1,818,000 (4.5%)	682,100 (△3.5%)	1,566,600 (7.8%)
大 学 院	国立	780,900 (△9.5%)	1,475,800 (△1.4%)	708,800 (△0.7%)	1,426,700 (2.3%)	722,100 (△5.2%)	1,137,700 (4.7%)
	公立	786,200 (△9.5%)	1,817,300 (△2.0%)	756,600 (9.1%)	1,767,100 (10.3%)	752,800 (1.1%)	1,266,000 (11.3%)
	私立	1,416,900 (△2.2%)	2,483,900 (5.7%)	1,292,100 (△7.6%)	1,695,900 (16.8%)	1,364,700 (△4.3%)	1,318,800 (15.6%)
	平均	1,200,600 (△5.5%)	2,154,700 (14.4%)	995,400 (△9.4%)	1,568,500 (9.4%)	1,086,500 (△6.9%)	1,245,100 (11.0%)
合 計	1,511,700 円 (0.8%)	1,743,500 円 (1.7%)	1,743,500 円 (1.7%)	1,743,500 円 (1.7%)	1,511,700 円 (0.8%)	1,511,700 円 (0.8%)	
合 計	1,431,400 (0.6%)	1,674,600 (1.5%)	1,674,600 (1.5%)	1,674,600 (1.5%)	1,431,400 (0.6%)	1,431,400 (0.6%)	
合 計	2,003,900 (1.3%)	2,492,500 (4.3%)	2,492,500 (4.3%)	2,492,500 (4.3%)	2,003,900 (1.3%)	2,003,900 (1.3%)	
合 計	1,884,200 (1.2%)	2,201,000 (3.3%)	2,201,000 (3.3%)	2,201,000 (3.3%)	1,884,200 (1.2%)	1,884,200 (1.2%)	

(注) ( )は、平成26年度調査からの伸び率である。